13番目のオルキゾメ
13番目のオルキゾメ
ADULT ONLY
R18
Fire Emblem Three Houses unofficial fan book

注意書き

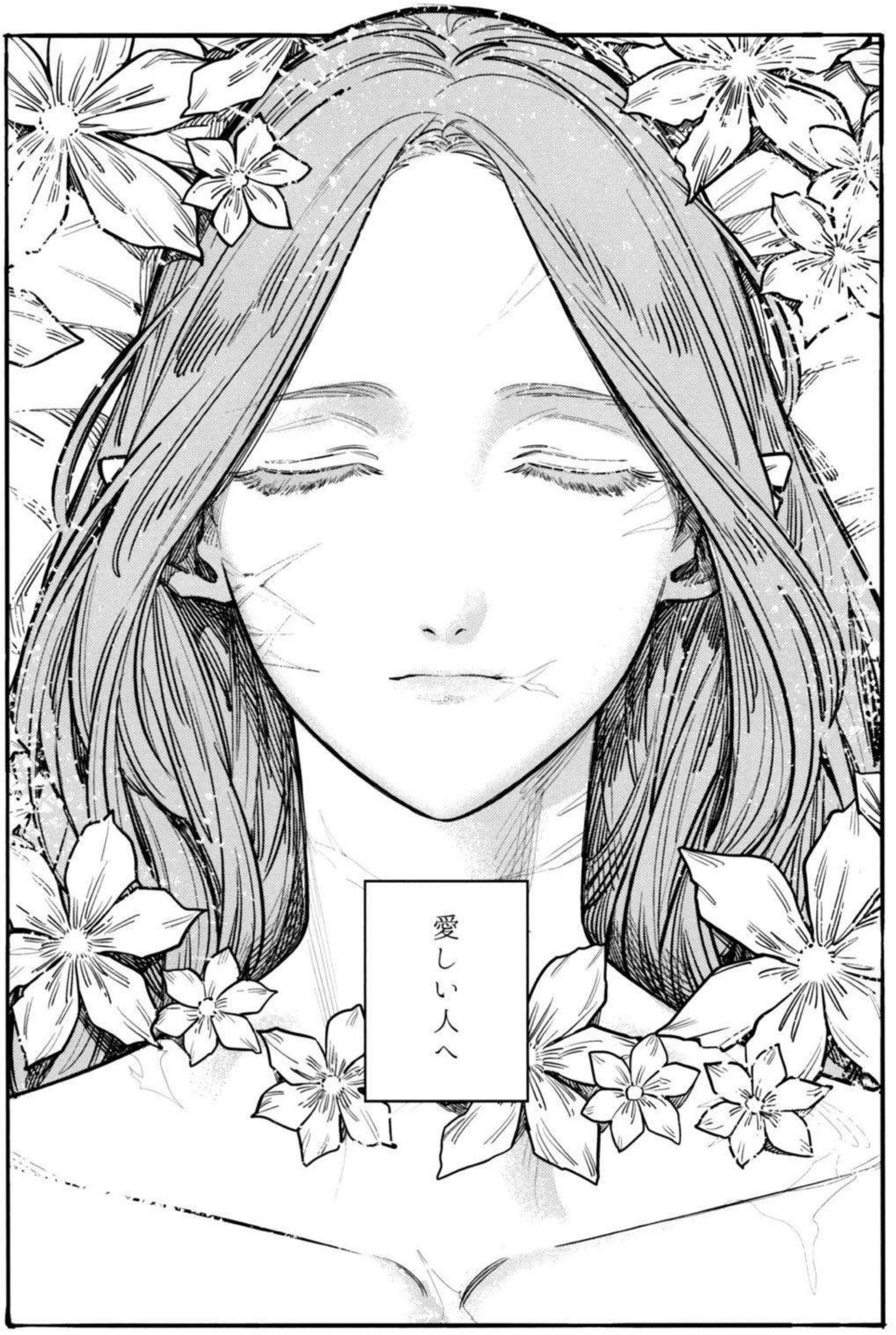
当同人誌は、銀雪の章におけるベレス・レアS支援エンド後の展開、
流血・同性愛的表現の内容を多く含んだ内容となります。
あらかじめご注意くださいますようお願い申し上げます。

主に銀雪の章にて描かれる歴史を参考としていますが、
登場人物、物語背景、及び着用品等に意図的な捏造や、曖昧な部分を含みます。

また、当作の内容はあくまでも個人の感想・思想に基づいたものです。

女神は天であり、女神は大地である。
今にあり、昔にあり、やがて来たる時にある。
かの目はすべてを見通し、
かの耳はすべてを聞き、
かの手は全てを受け止める。

－ セイロスの書　第一章　啓示録 －

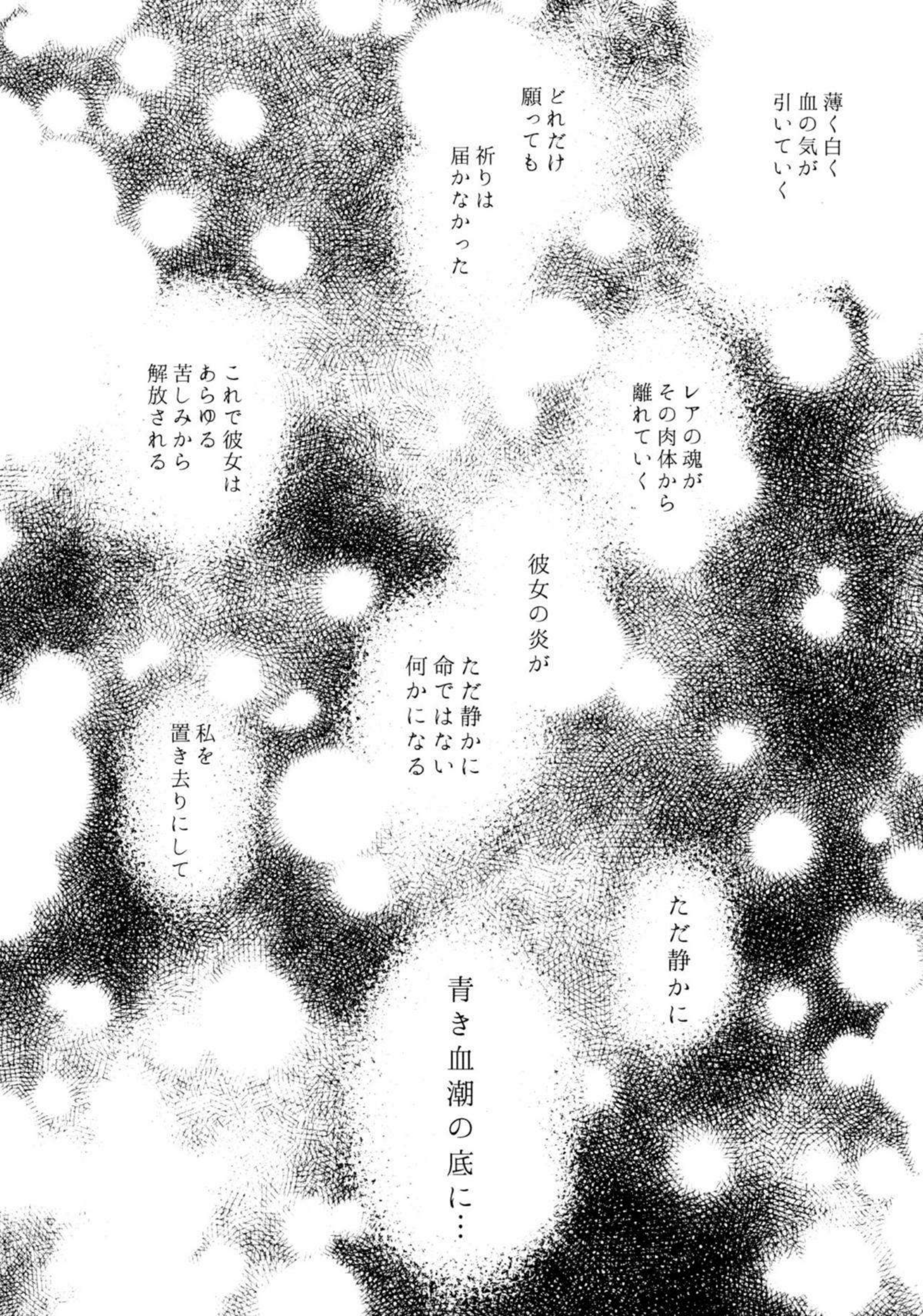

愛しい人へ

私は
あなたに

心より祈り
捧げたので
す を

たとえこの身が
朽ち絶えようと

あなたに
ただ生きて
ほしいと



薄く白く
血の気が
引いていく

どれだけ
願っても

祈りは
届かなかった

レアの魂が
その肉体から
離れていく

これで彼女は
あらゆる
苦しみから
解放される

彼女の炎が

ただ静かに
命ではない
何かになる

私を
置き去りにして

ただ静かに

青き血潮の底に…

青き血
人ならざる
神の血
声が聞こえる

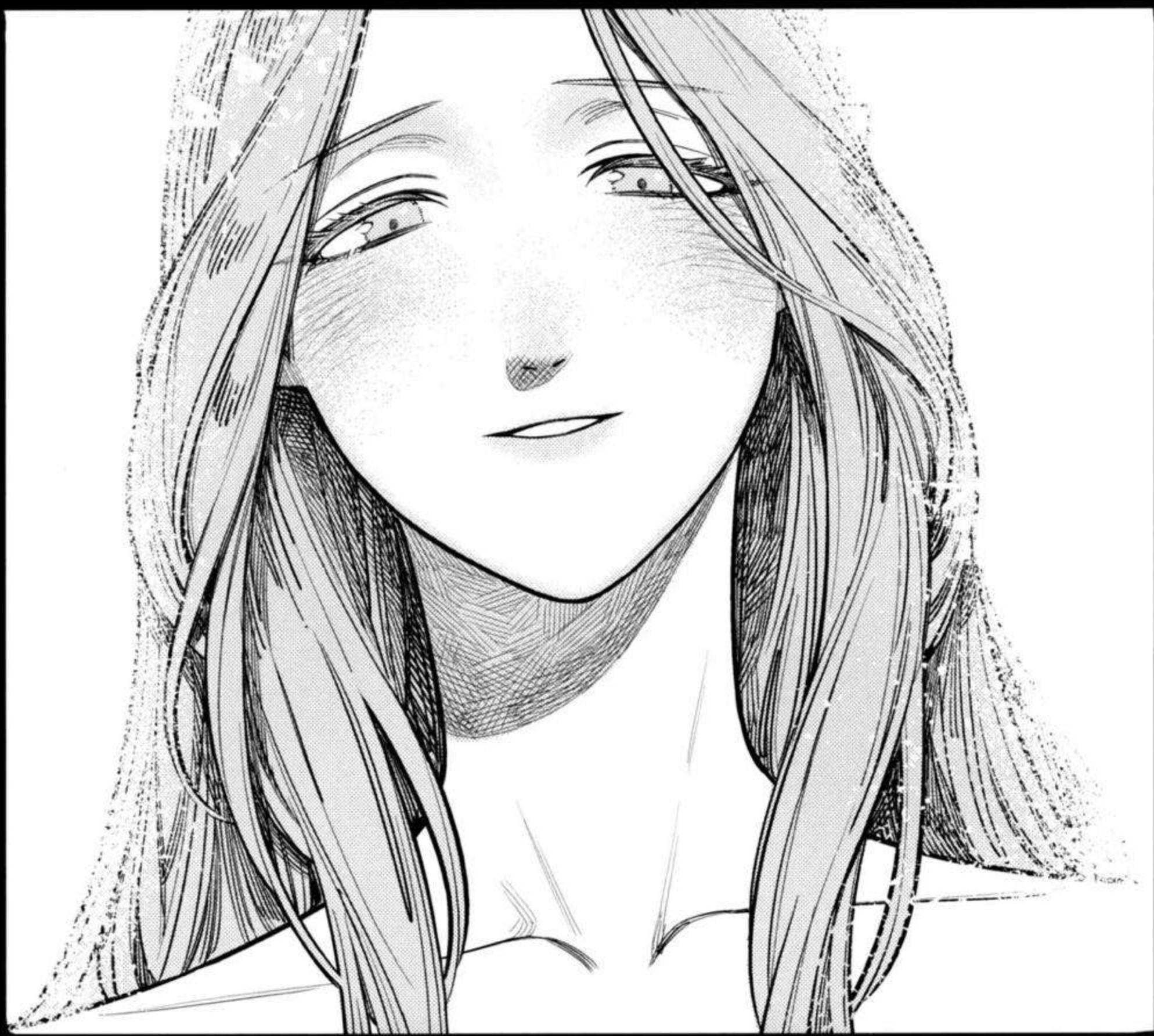
誰かの笑い声

誰かが私を
何度も呼ぶ声

すぐ傍に聞こえる

かすかな
歌声と

ゆりかごの
ぬくもり



ああ…

私はずっと…

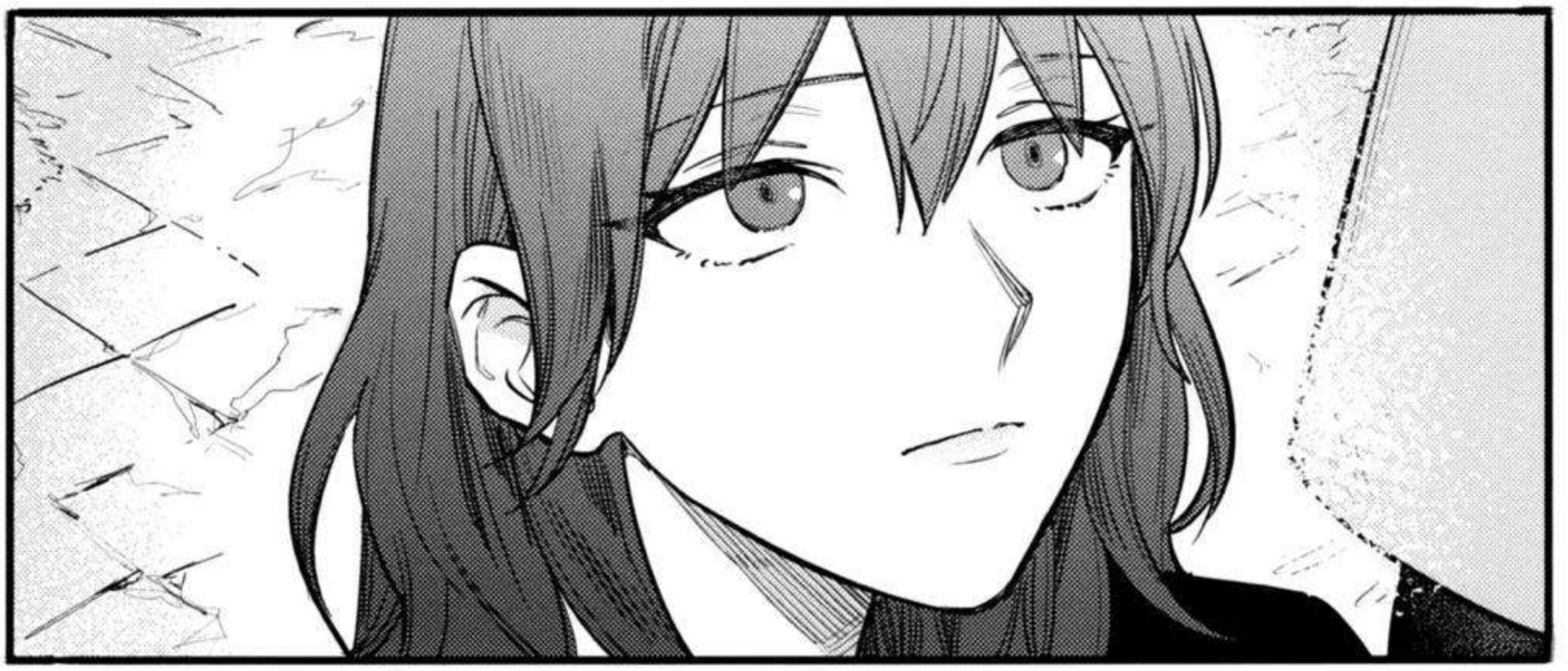
あなたに

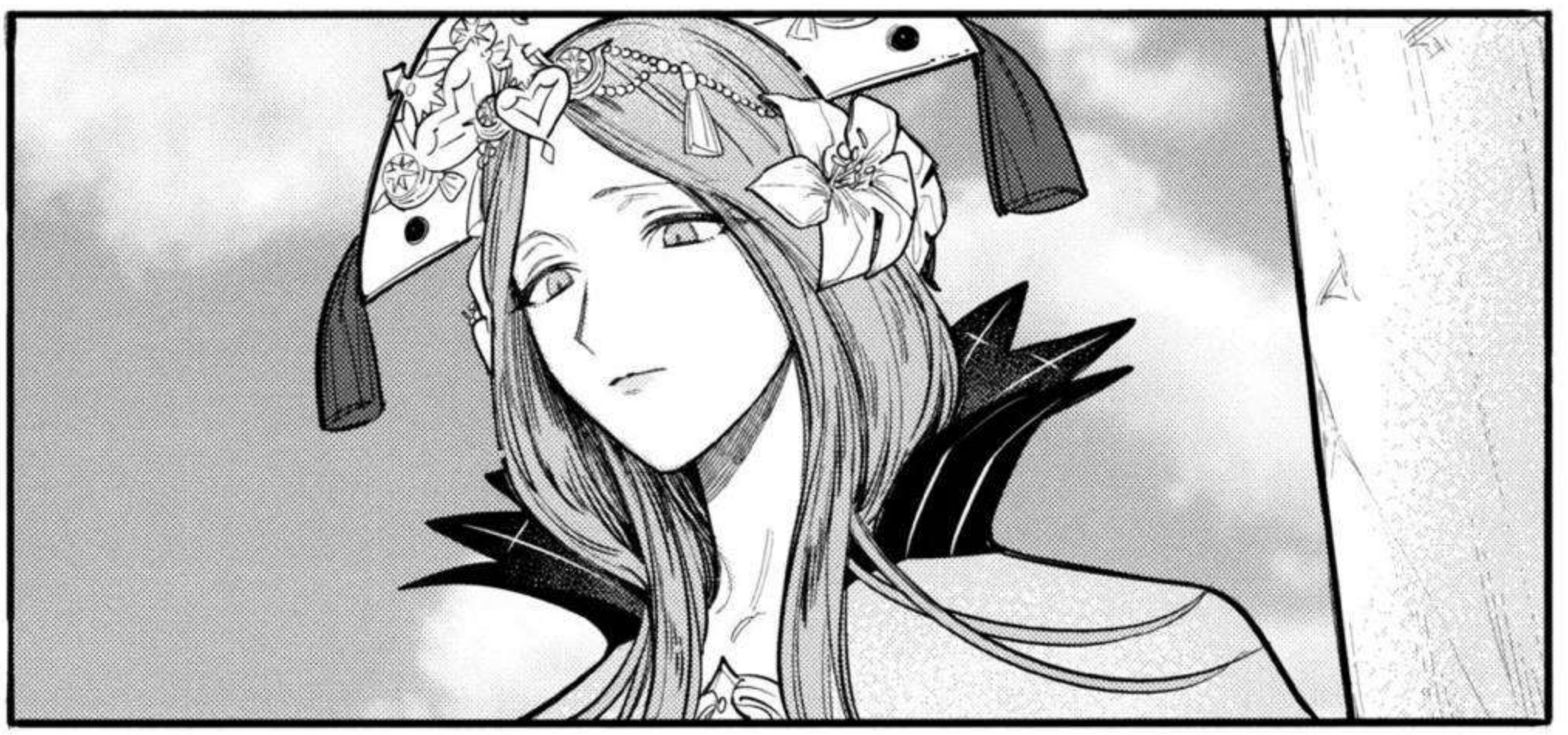
会いたかった

13番目の

オルゴメス

初めて
あなたを
みたとき





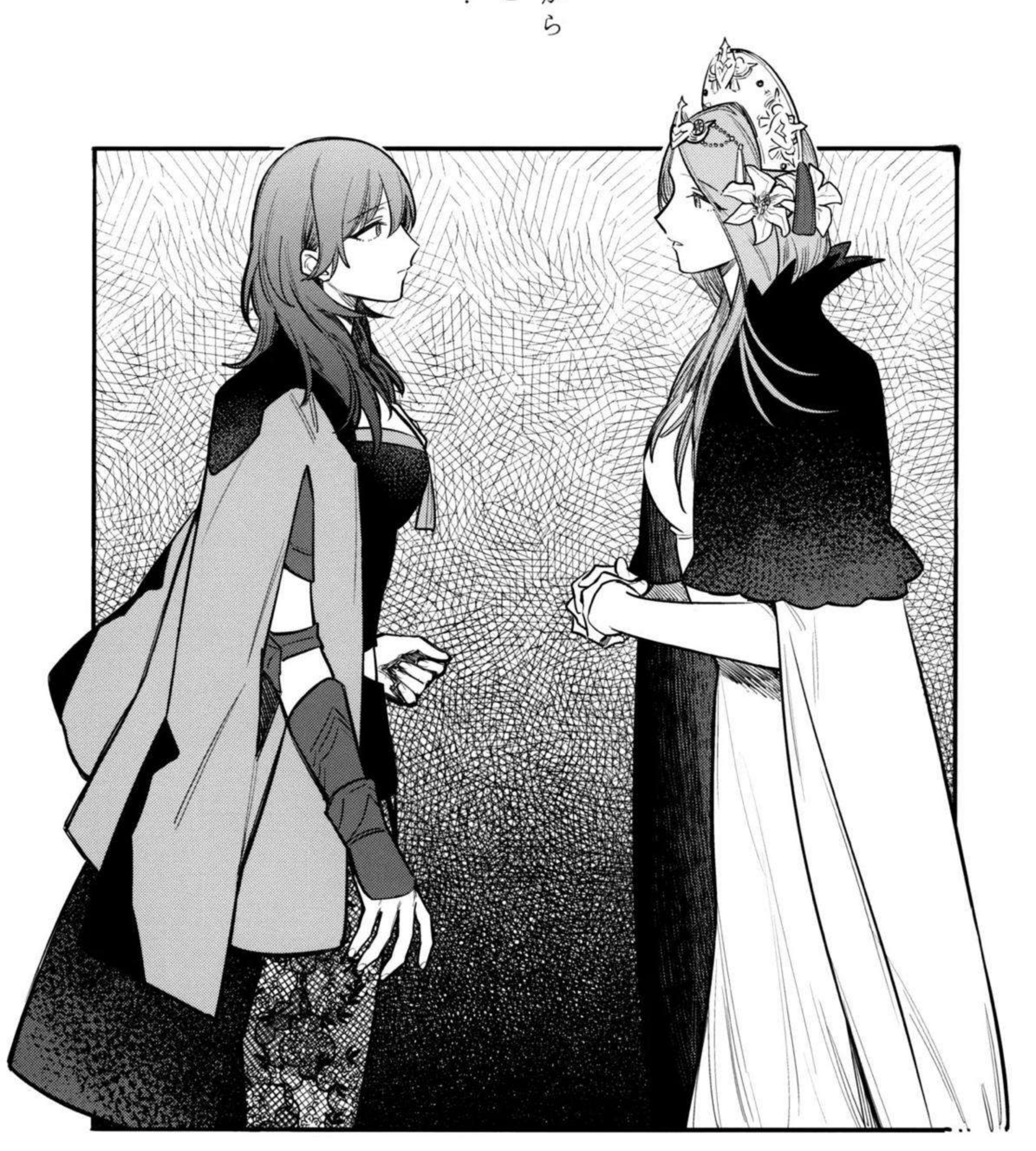
なぜだか

無性に

寂しさと

懐かしさを
感じた

思えば
あの瞬間から
私はずっと
あなたを…

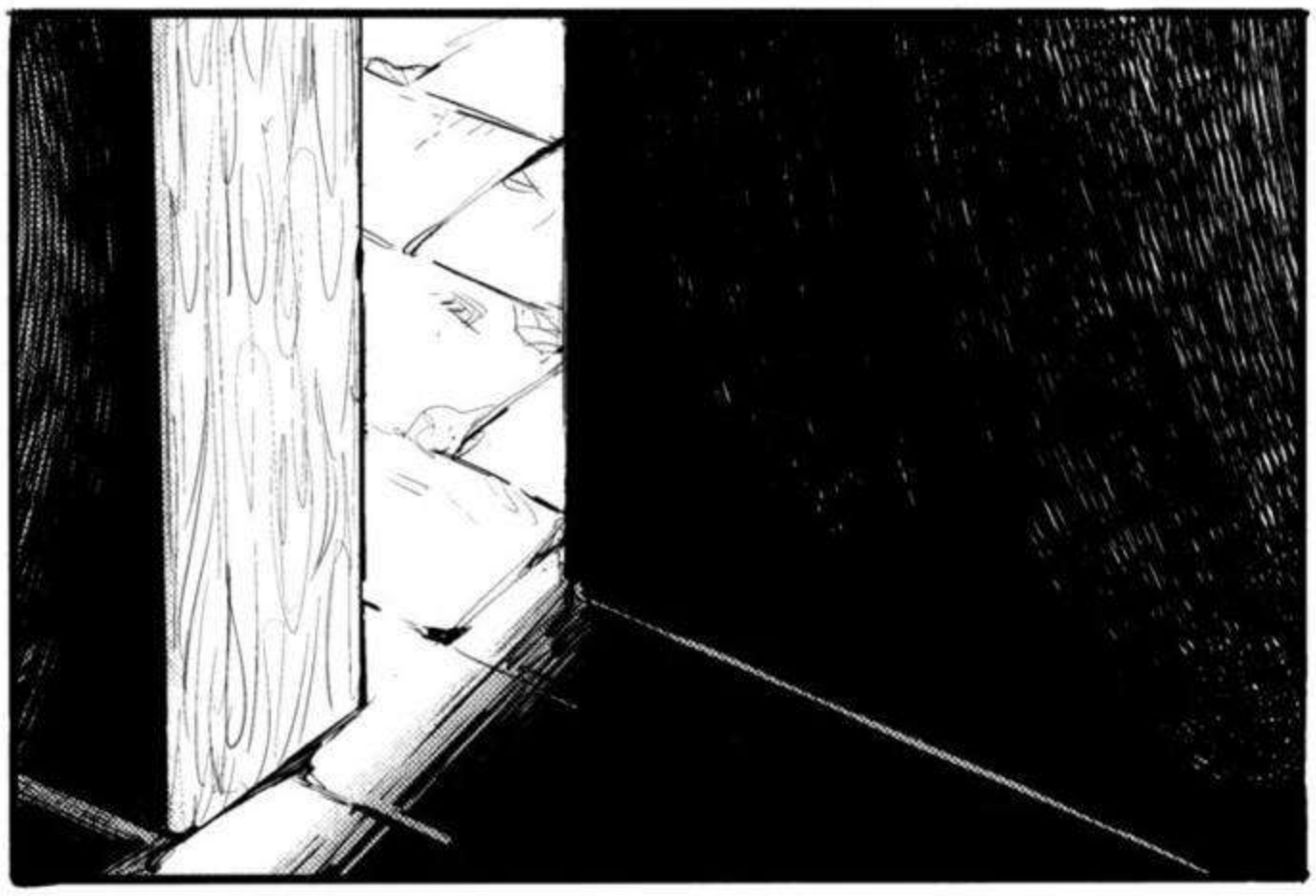


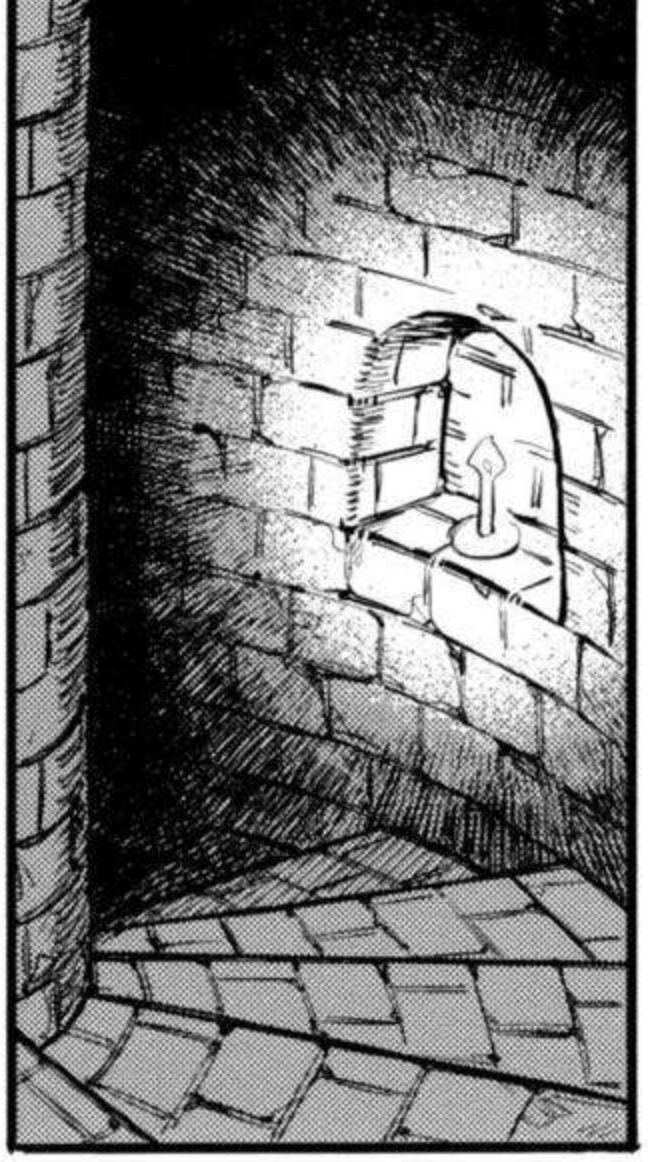
13番目の

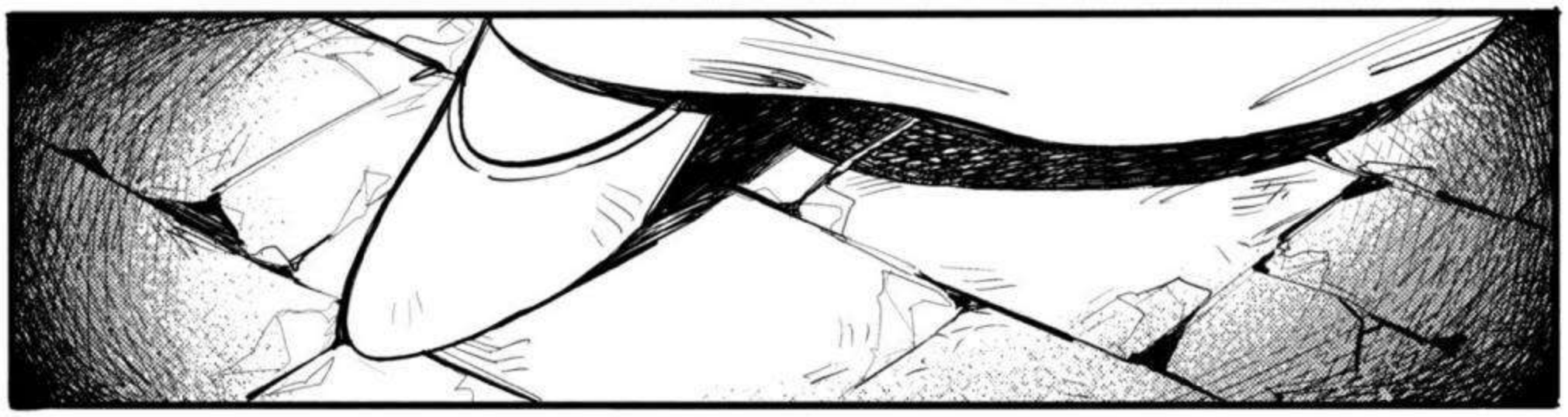
オキゾメ

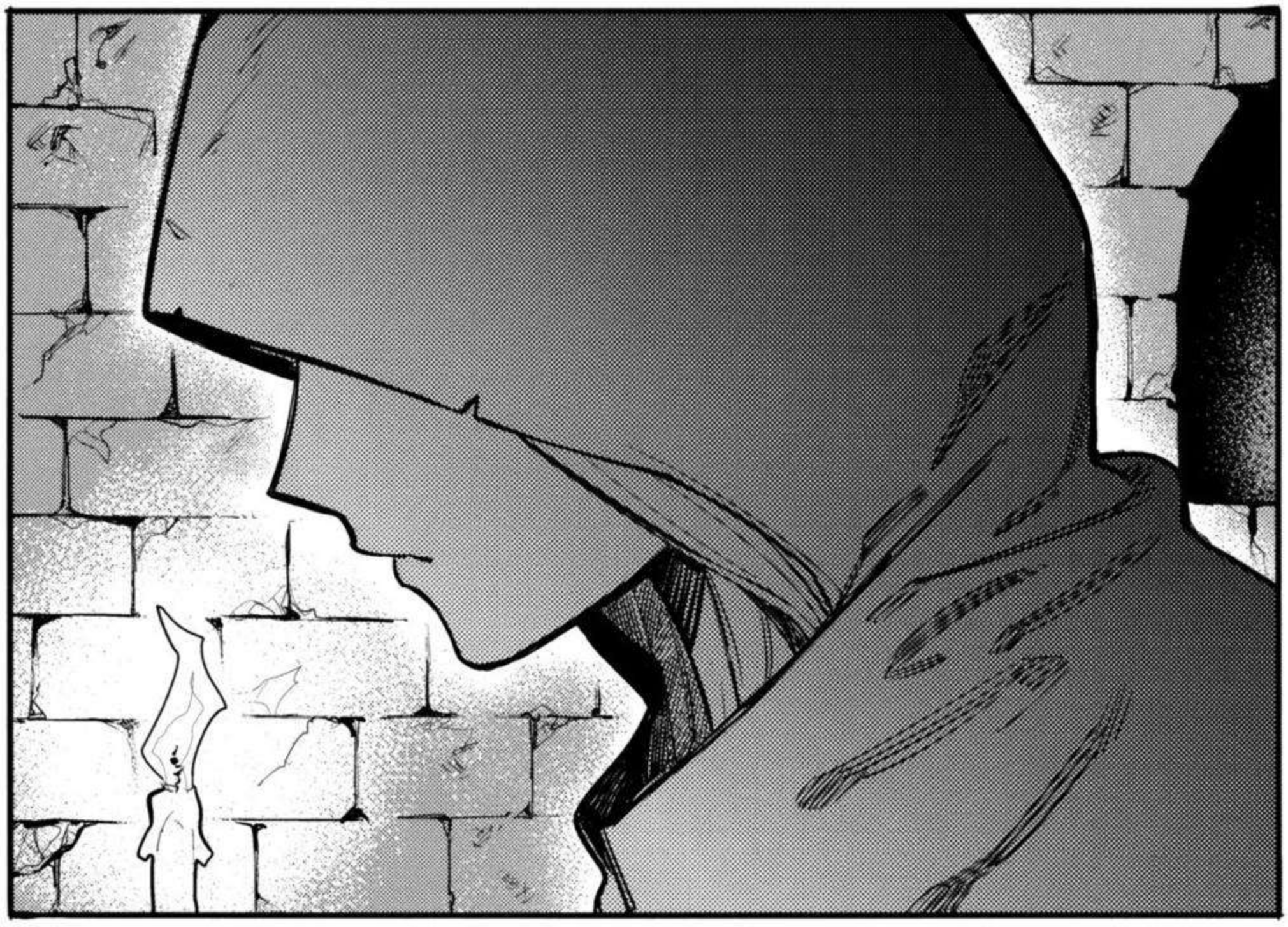
女神の証を受け取りし者、
言葉を預かりし者、
すなわちセイロス。
天の、大地の御使いとして、
セイロスは恵みと平安をあなた方に届ける。

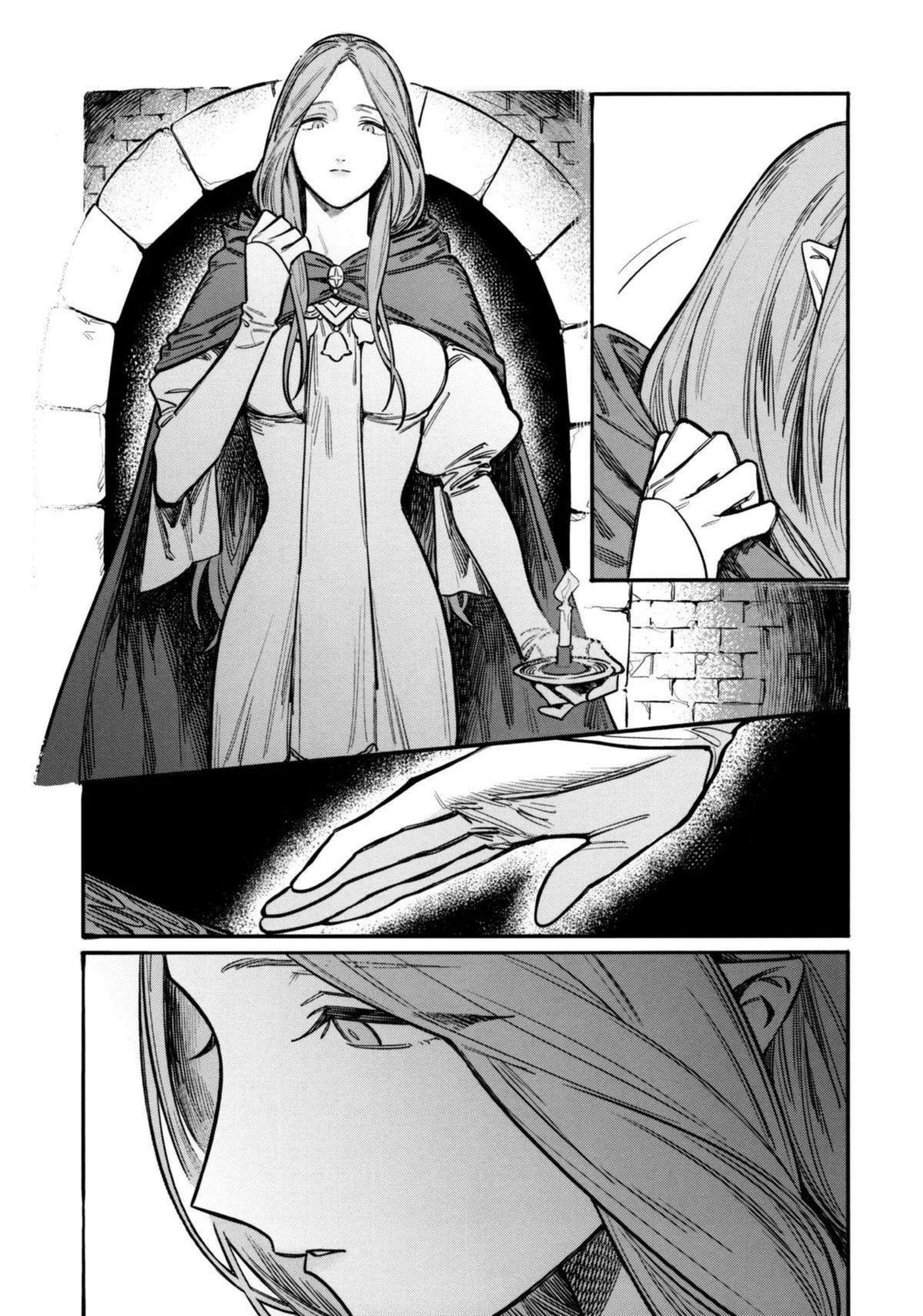
－ セイロスの書　第一章　啓示録 －

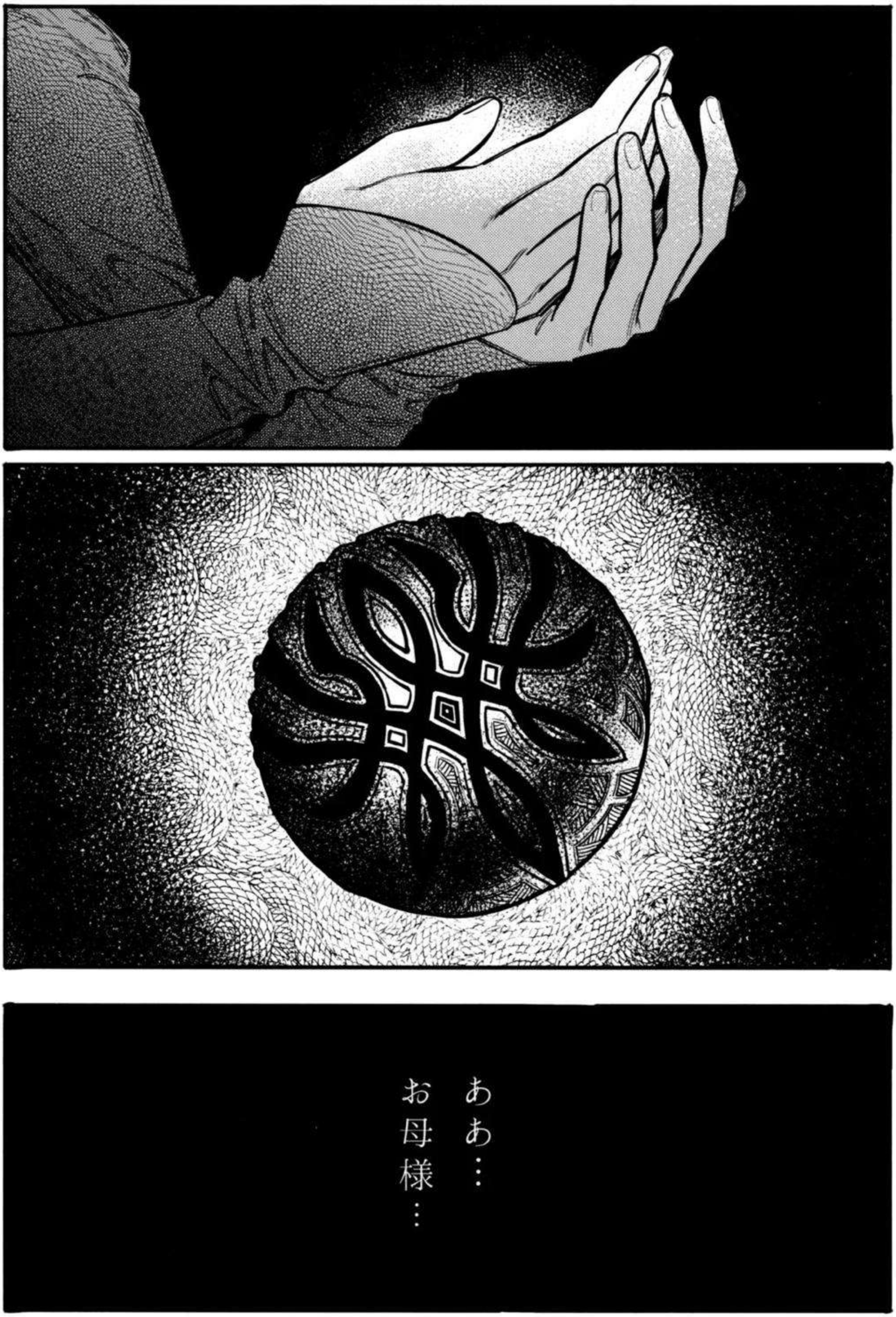












ああ…
お母様…

こうして…
母の心臓に
触れるたび
あのときの
光景が蘇る

いつそ
あの瞬間
母の骨に
貫かれて
私も死んで
いたなら…

しかし私は
生き残った

レ…ア…
逃げ…え…

・・・・・・・・・・・・
生き残ってしまった

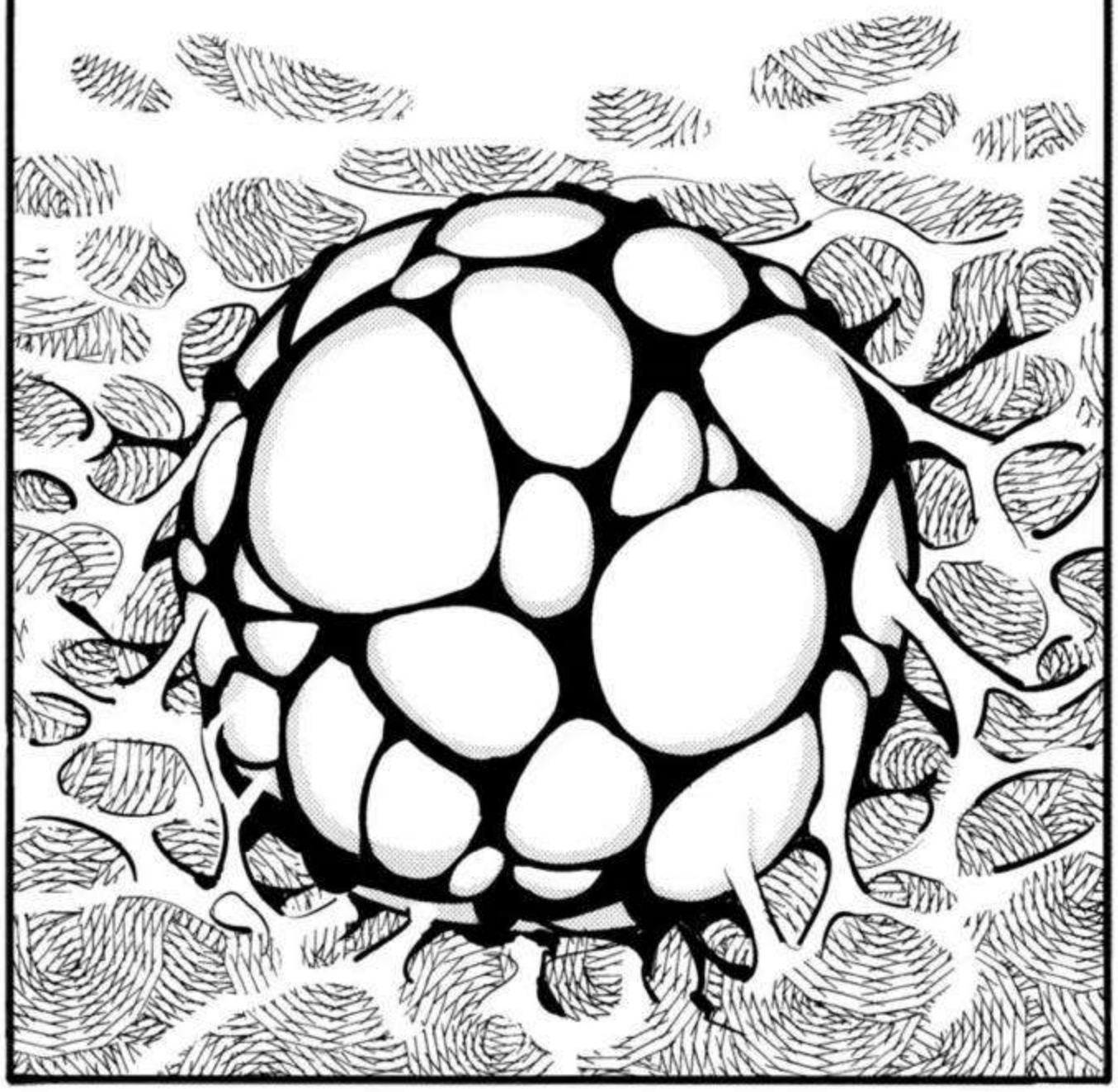
だから
私が取り戻さねば

それは
私の血を含んで

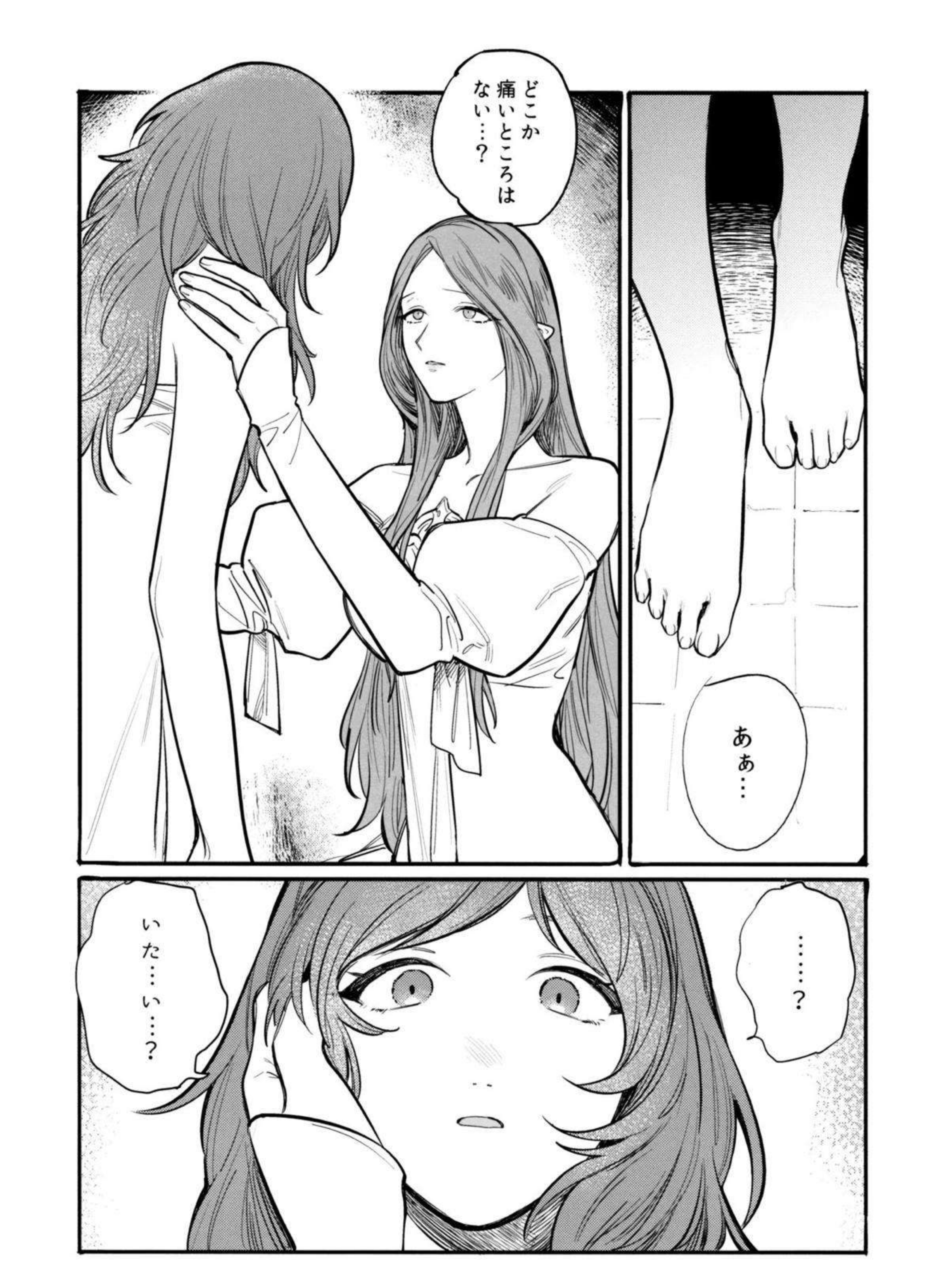
ゆっくりと
空蝉をかたどる

命の核のまわりに
白い泡がふくらむ

やがて
無数に分裂し
融合しては蠢き
それらを繰り返す



長い時間を
かけて
人の形へ
姿を変え
私と似た肌
私と似た髪
私と似た眼
となって
そして
魂が宿る


どこか痛いところはない…？
ああ…
……？
いた…い…？

あなた…
だれ…？

言葉が…
わかるの
ですね…

私の名は
レア…

それと…
あなたの名は…

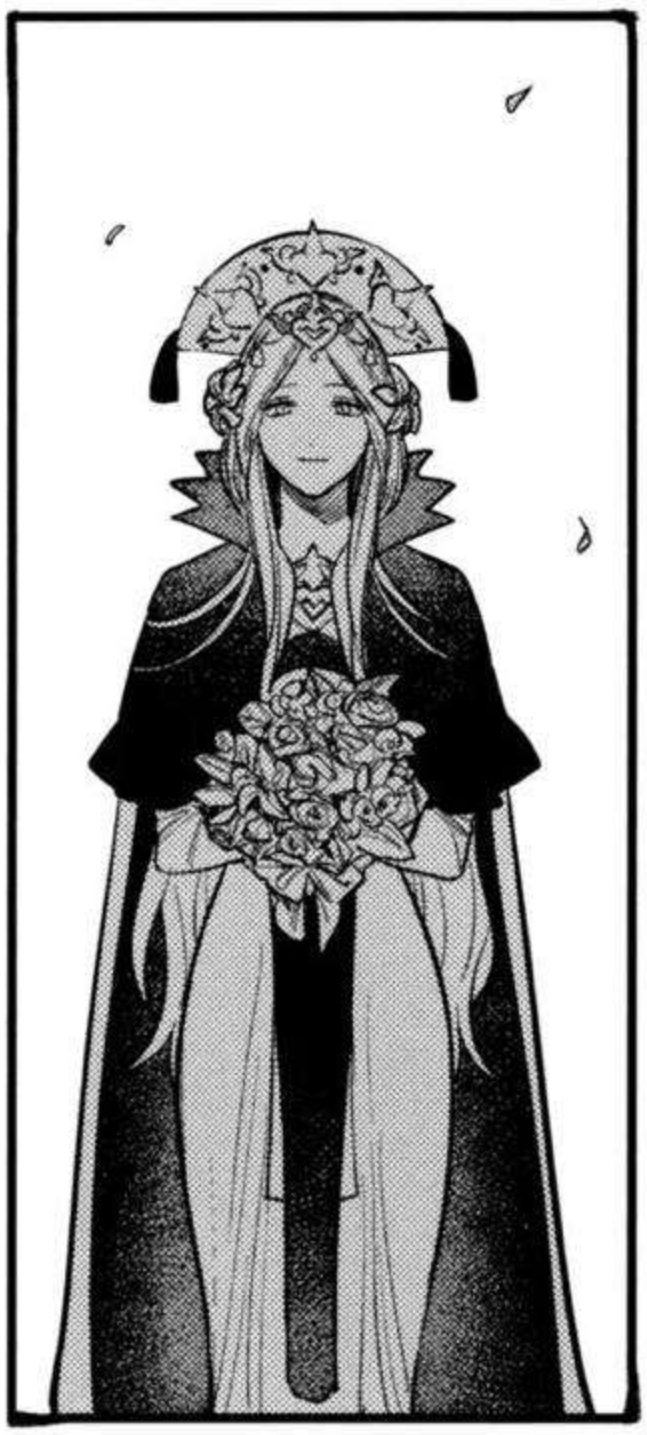
シトリー
十二番目の少女

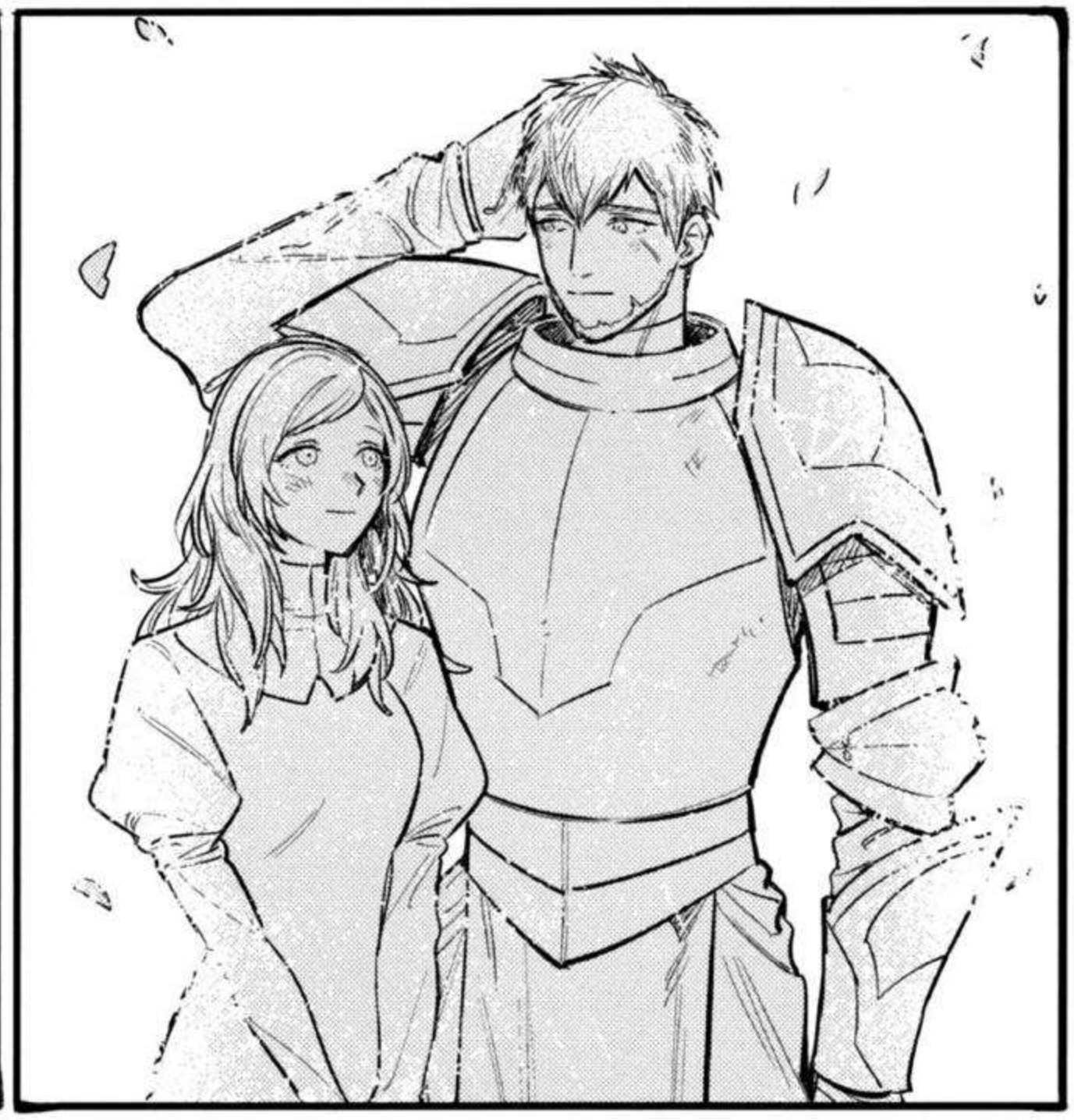
彼女もやはり
お母様の意識を
宿さなかった

わかっていた
お母様に
能う器は
私の力では
到底作れない

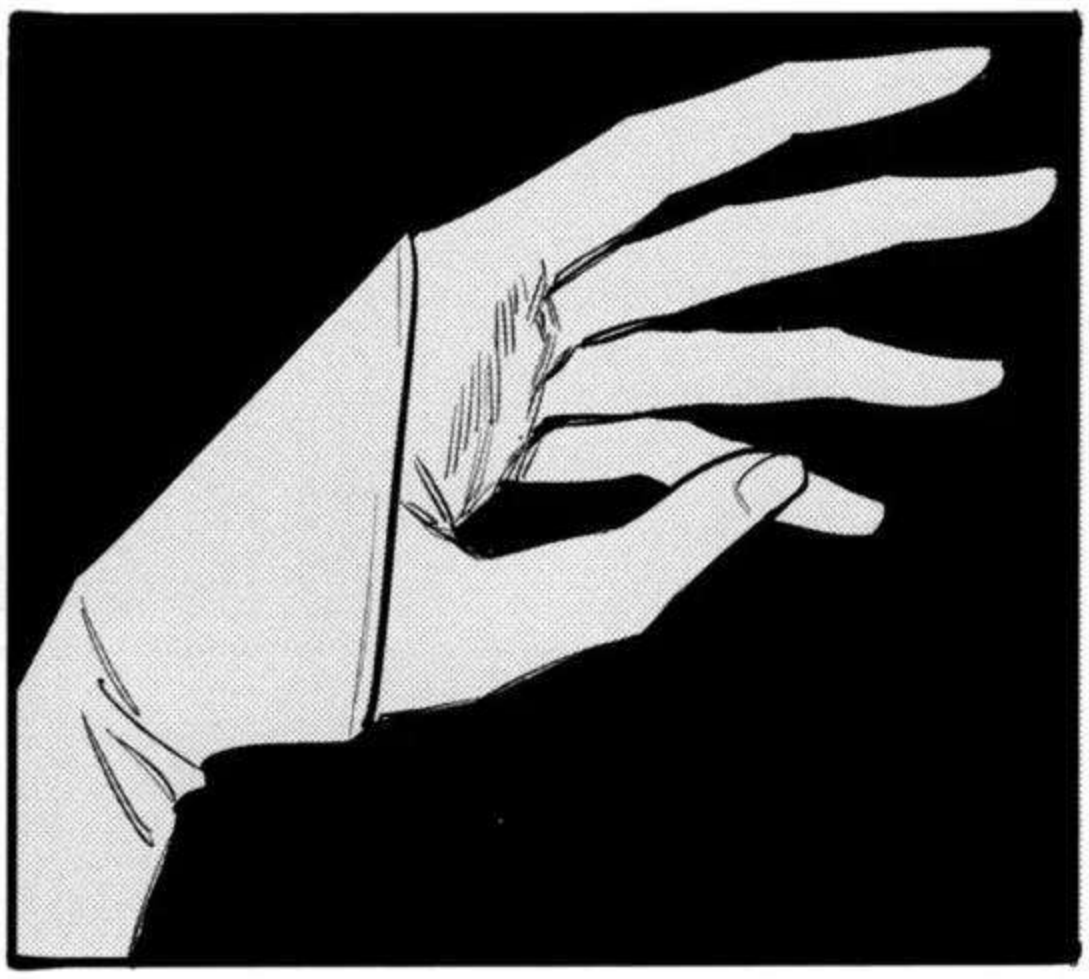
もうこれで
いいのだと
心のどこかで
思っていた

人と同じ
寿命を生きる
彼女達を
私は幾度も
見送り続けた



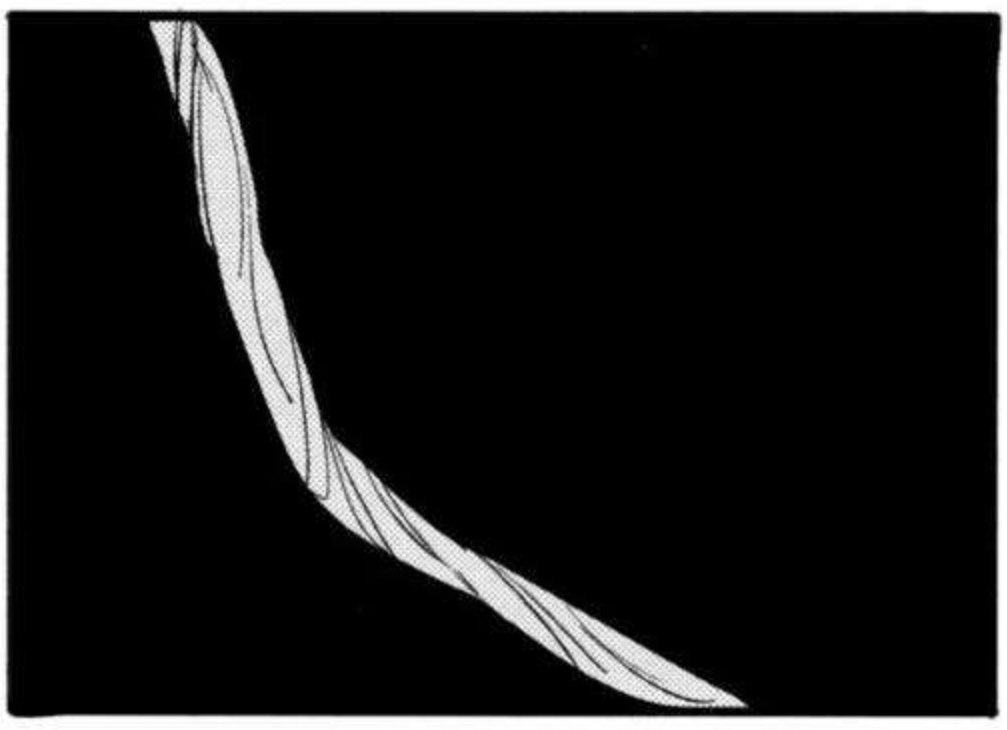


城壁に囲われた
小さな世界で
それでもあなたは
なんの屈託もなく



心から幸せだと
言ってくれた

おねがい
どうかこの子を…
この子だけは
助けてあげて…



ようやく
生まれた赤子は
泣き声ひとつ
あげなかった

ああ……
そんな…
どうして…

レア…
私はもう
・・・
大丈夫だから
どうか…
この子に…

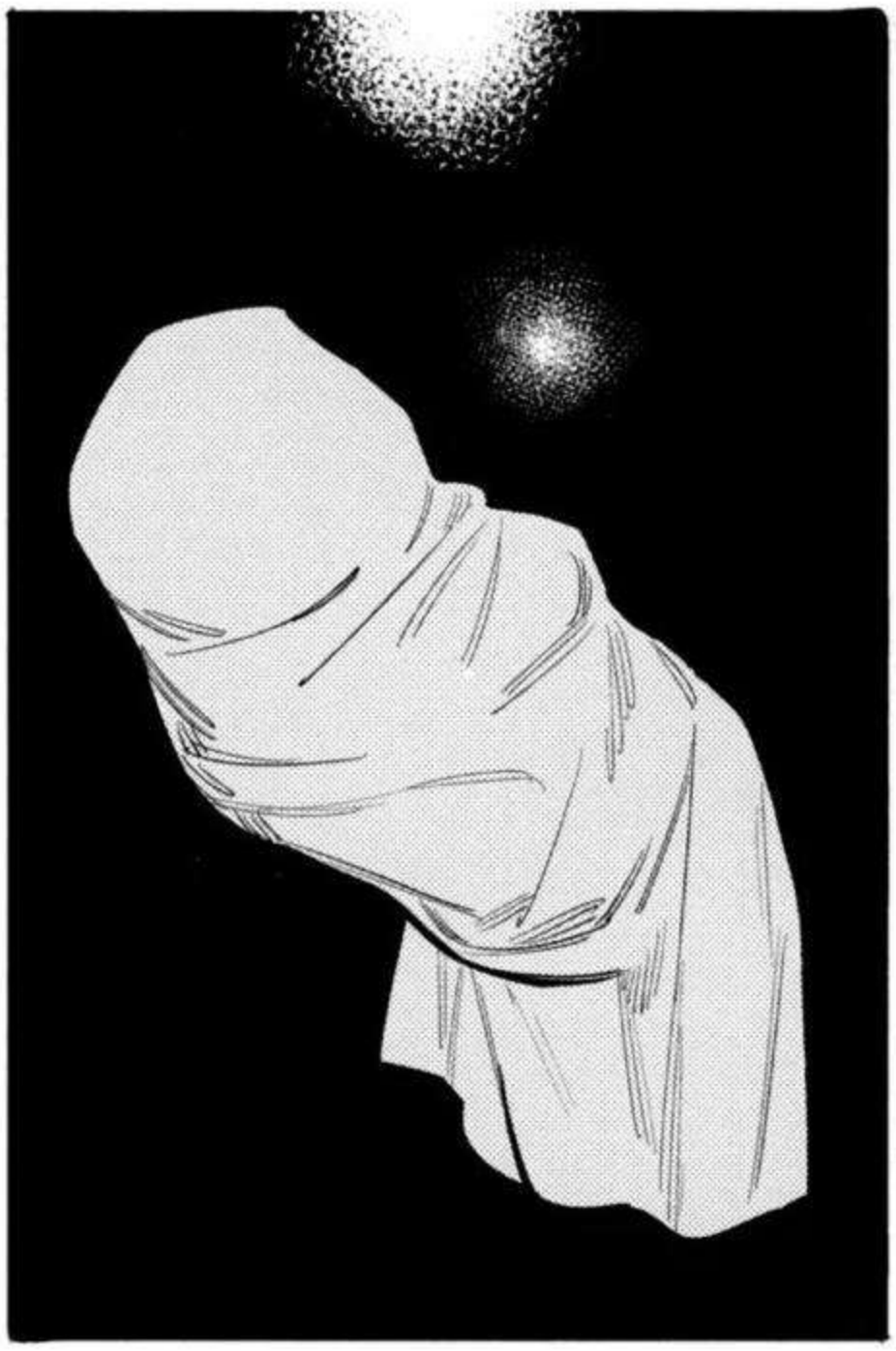
シトリー…

シトリー…っ

ごめんなさい…

あぁ…

ありがとう…レア…



あう

うう

あうぁ

あ

うぁ

ねえレア…

ジェラルトと話し合ったのこの子の名前…

本当はまだ内緒なのだけれど…

男の子ならベレト…

女の子なら…

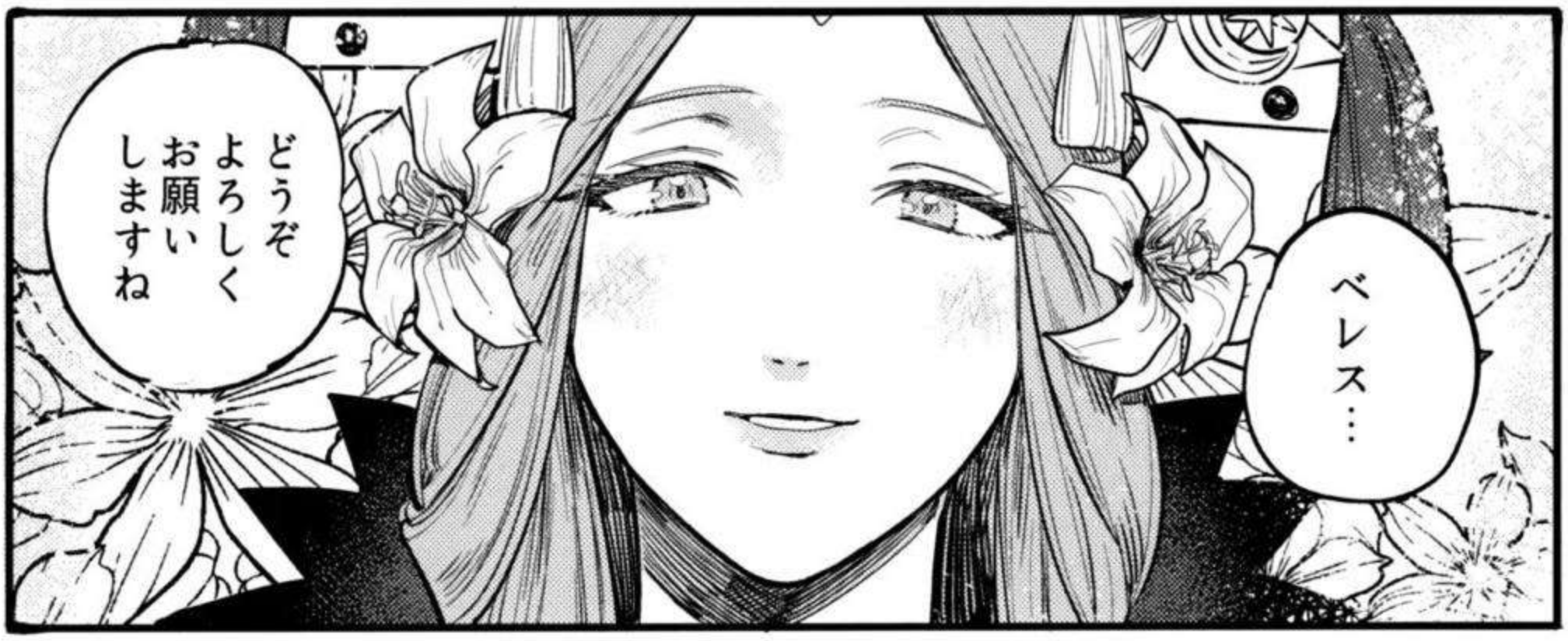
そうしてあなたは…この世にうまれた

ベレス……

そう…良い名前ですね

いつかきっと再びあなたに会えるような気がしていた

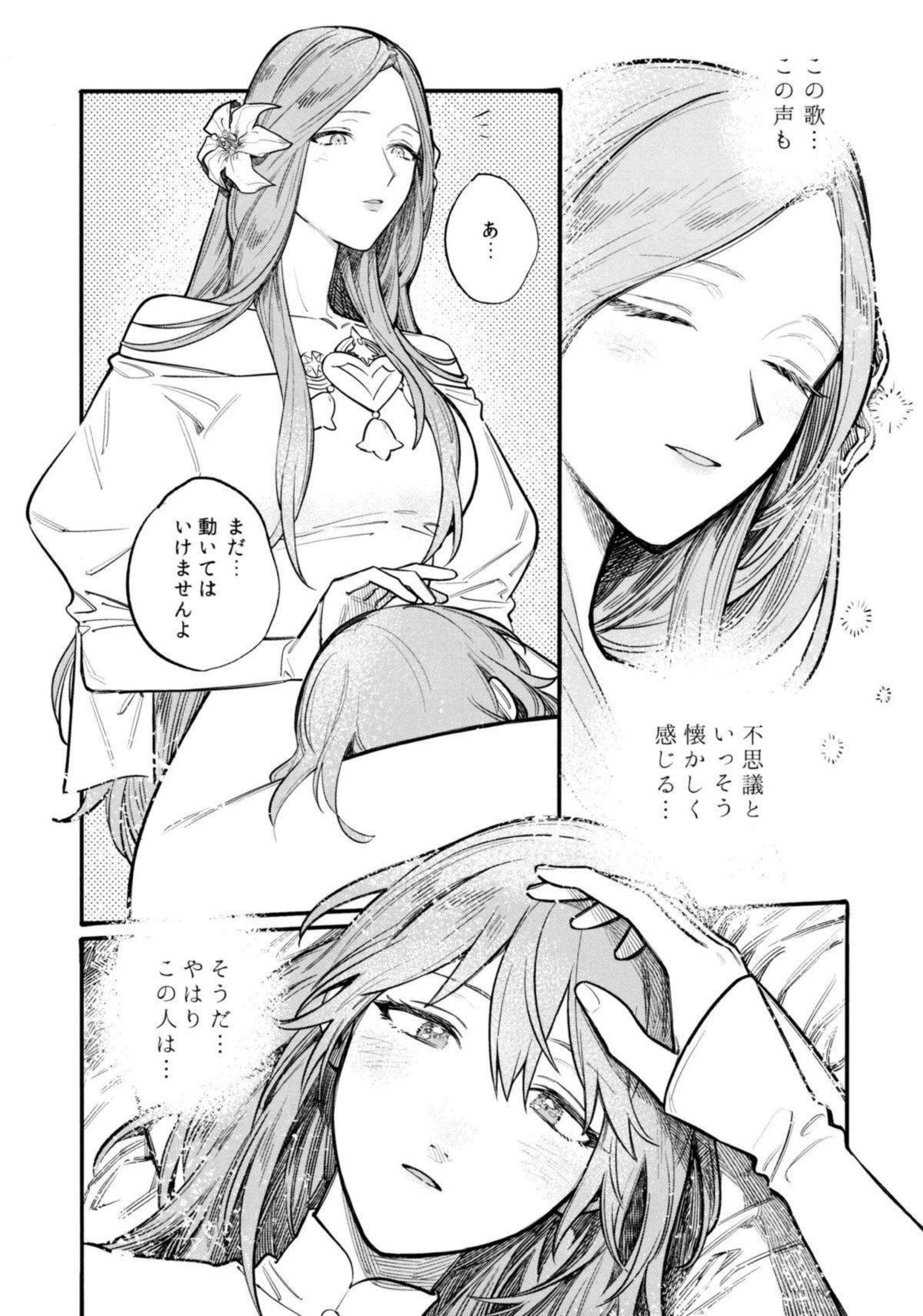
さて
私のことは…ジェラルトから聞いているかもしれませんね
セイロス聖教会の大司教を務めるレアと申します



女神よりの全能を以て。
セイロスは、女神の剣として邪を除け、
セイロスは、女神の子として王を封ず。
セイロスは、女神の翼として人を導き、
セイロスは、女神の声として愛を説く。

－ セイロスの書　第一章　啓示録 －

暗い淀みの中で
一筋の光をみた


この歌…
この声も
あ…
まだ…
動いては
いけませんよ
不思議と
いっそう
懐かしく
感じる…
そうだ…
やはり
この人は…

私は
この人を
ずっと
探していた

…ベレス

すー

父、そして
生徒たち

騎士団の
仲間たち

おしなべて
大切に想う
すべての
ひとたち

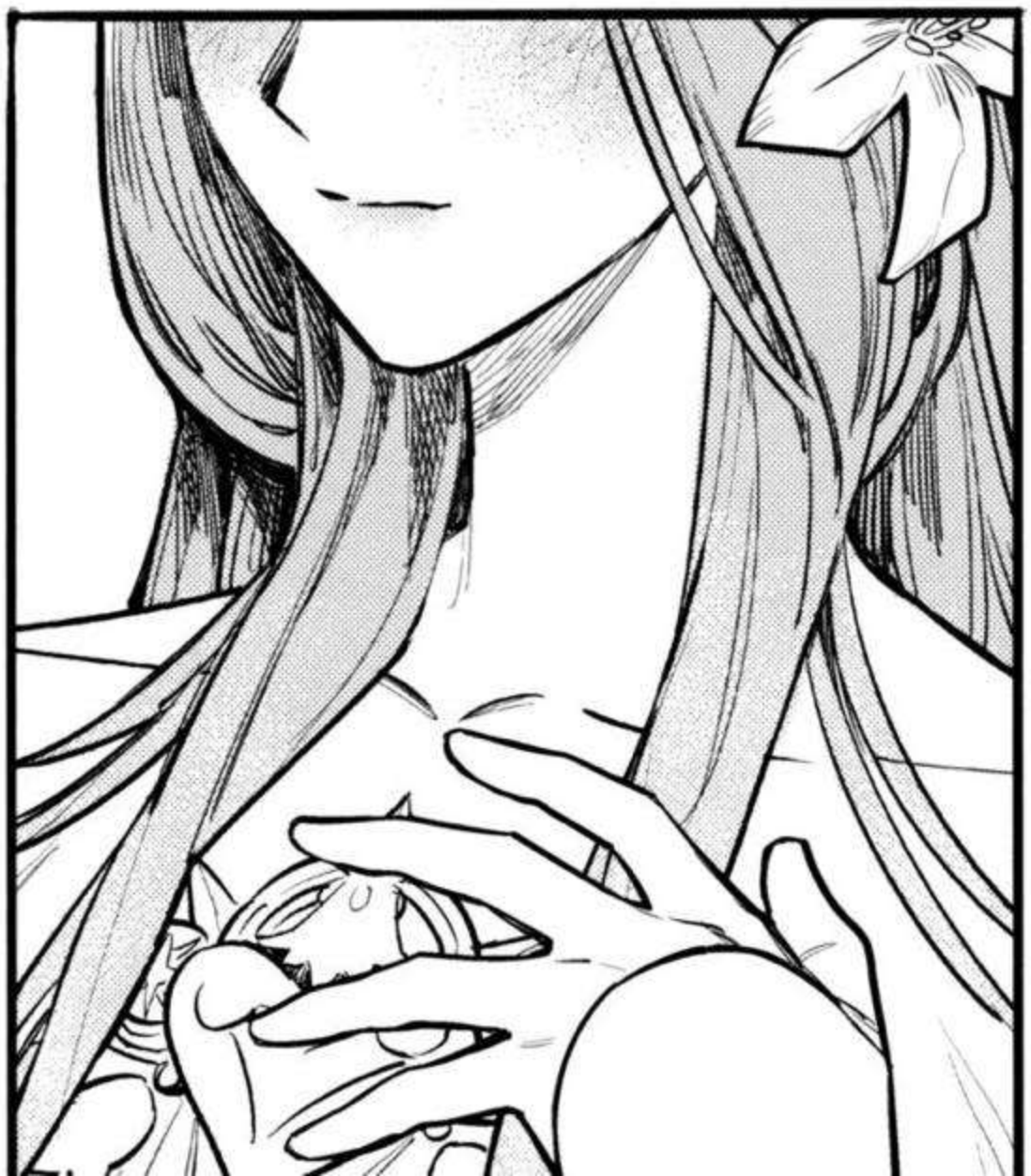
……？

どうしてか
彼女は
そのどこにも
属さなかった

他の何にも
代えられない

ああ…
こんなにも
深く知りたい
もっと心を
交わしたい…

この気持ちは
なんという
のだろうか



ふむ…？あの者…

どこか見覚えがある気がするのう

わしは…あ・れ・ら・を知っていた…ような…

然し…妙に不明瞭じゃ

きっと

彼女の求める
私にはもう
なれない…

さぁ…
ベレス

このまま…
もう少し
お眠りなさい

そんな
予感が
していた

ときのよすがに

ああ…

なんだか…とても疲れた…

かわいもの

とまる

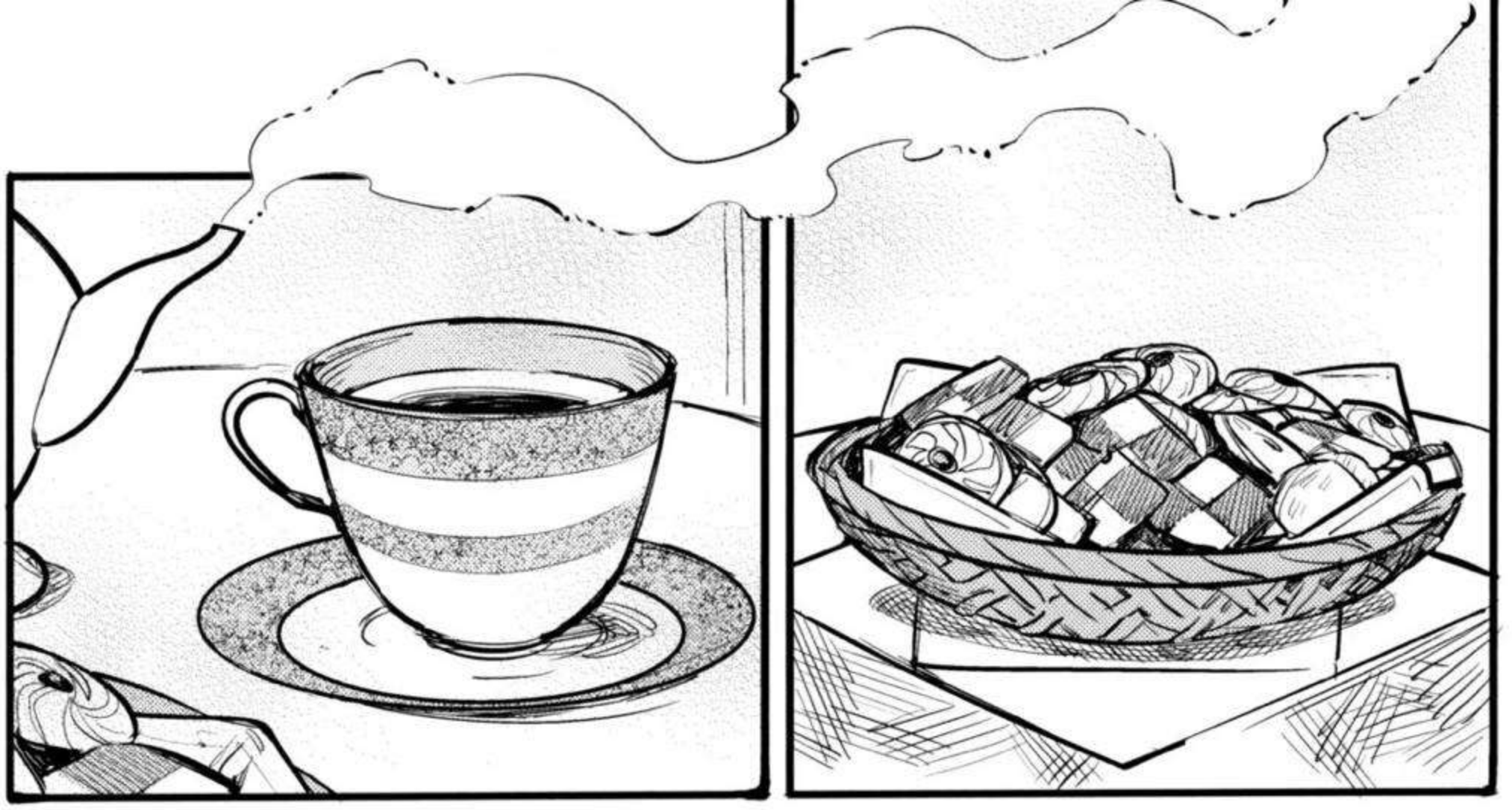
いまはただ眠りたい…

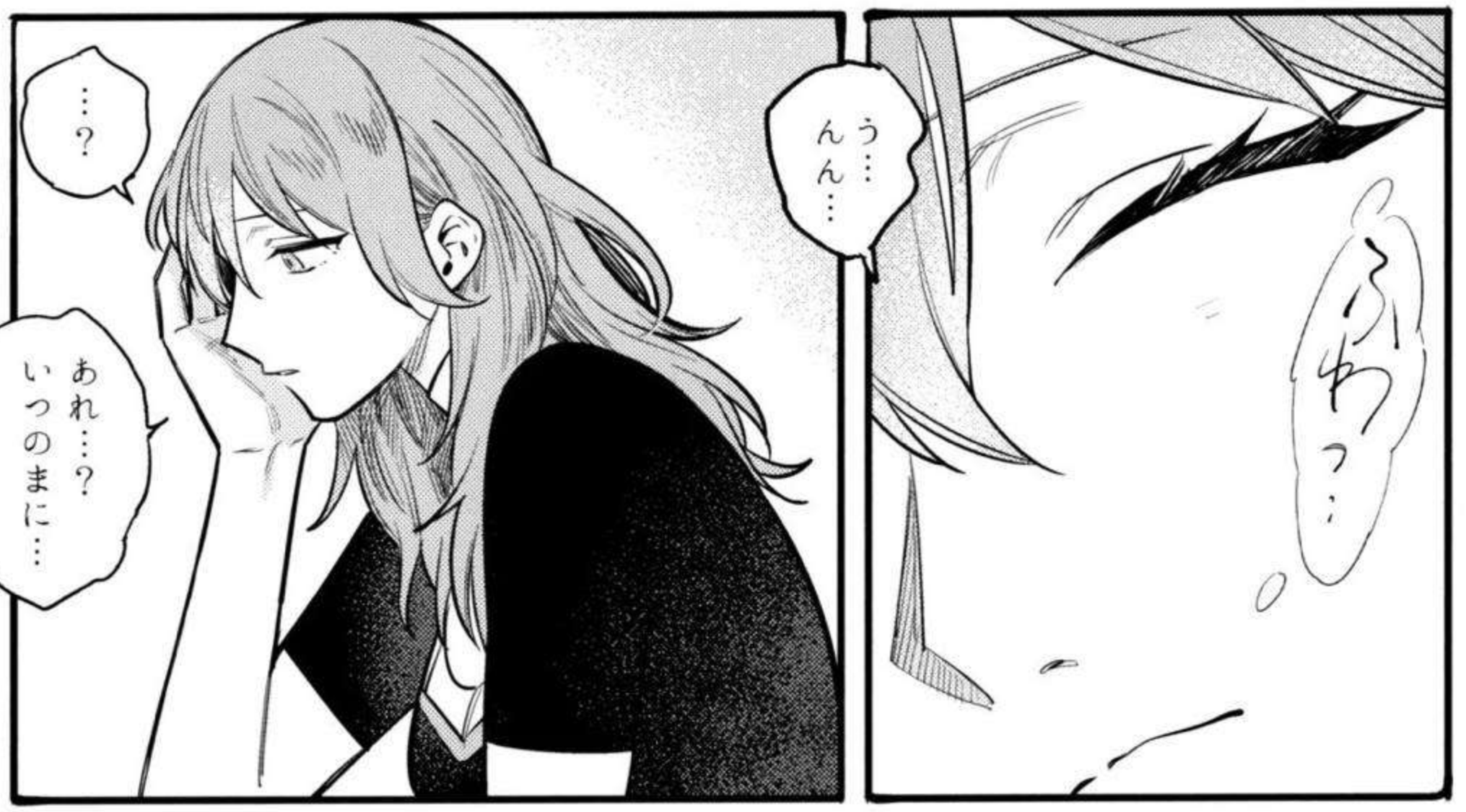
たゆたう

きぶ

ほのかな

かけら




う…ん…
…？
あれ…？いつのまに…

目が覚めましたか
ベレス…

ん…
レア…
ごめん…
すっかり
ここで眠って
しまって

良いのですよ
それより…
こちらで一緒に
お茶とお菓子を
頂きませんか？
うん、
頂くよ

このお菓子…

メルセデスとアネットが作ってくれたものですよ

えっ

あの子たちが？

ええ…

「先生が目覚めたらぜひ食べてほしい」と

…？

……自分は…

そんなに長いこと眠ってたかな…？

いいえ…
ほんの少しの
時間……

——あれ
なんだ…
この感覚

気の遠くなる
ような…
短い時間…

どういう
こと…？
なにか…
おかしい

そもそも
自分はなぜ
彼女と一緒に
ここにいる？

いや…
それよりも…

生徒たちは
どうした？

そうだ…

皇帝（エーデルガルト）の率いる
帝国兵たちが
大修道院まで
攻め入って…

それで…

レア…

ああ…

ベレス…どうか…あなたが…[illegible]…

よく聞こえない…

待って…

どこへいくのレア…！

レアっ!!
遠ざかる
遠ざかる
待って
レア…!
母様…
どうか…
あの…
待って
行かないで
私を置いて
いかないで…
やっと
会えたのに!
はっ…
やっと…
会えた…?

いつまで寝ておるのじゃ！

この大馬鹿ものめが！

いい加減起きんか

えっ……？

ソティス…？

そうだ
レア…

レアは？

おぬし…
夢でもみて
おったのか？

ここには
誰もおらぬぞ
おぬし以外は。

……。

ここは…

ここはのう
深い深い…
谷の底じゃ

今まさに
この瞬間も
戦火が
村々を焼き
大地は
泣いておる…

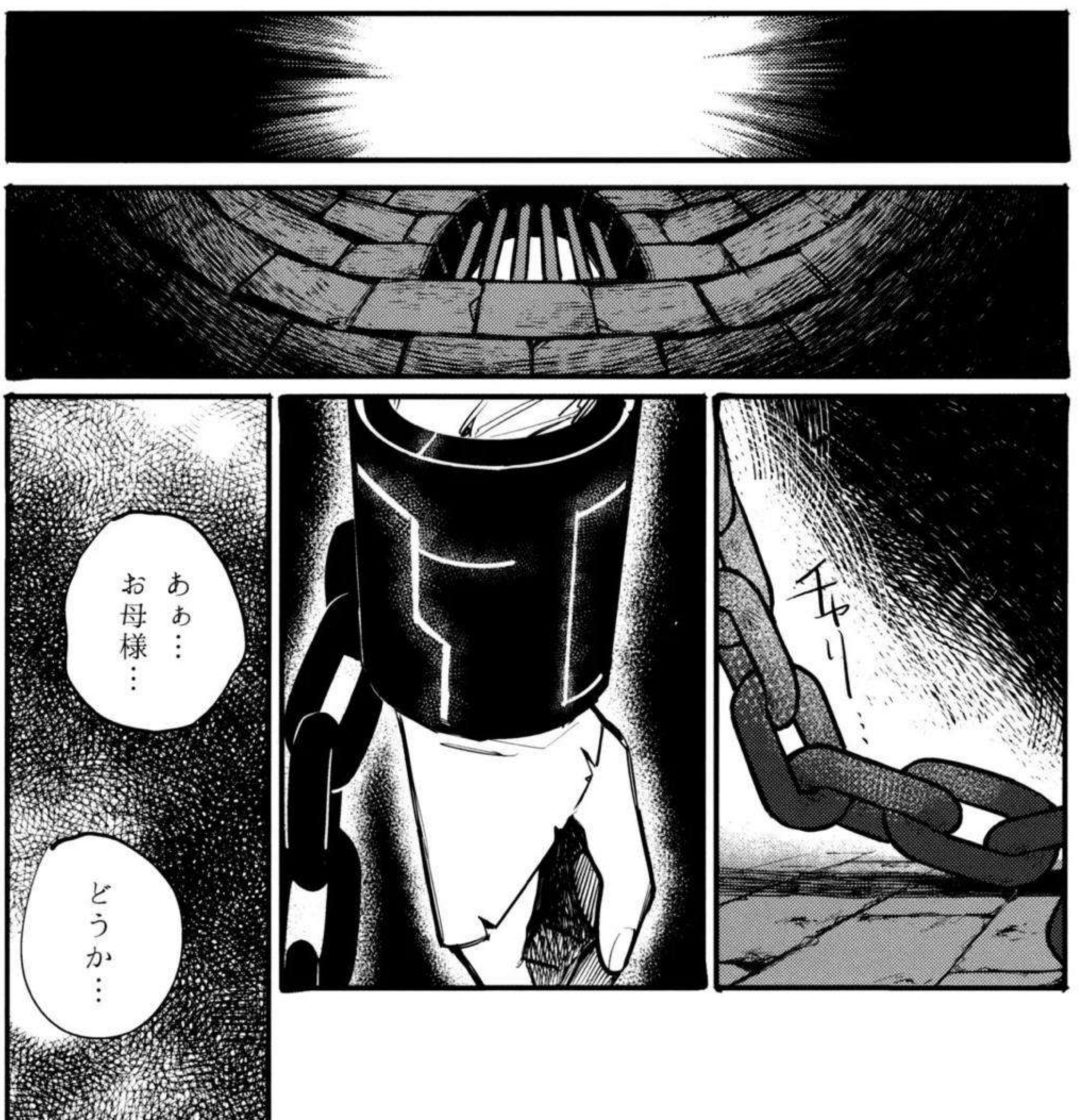
悲しいかな
わし一人では
何も出来ぬ

故におぬしと
共にゆかねば
ならん

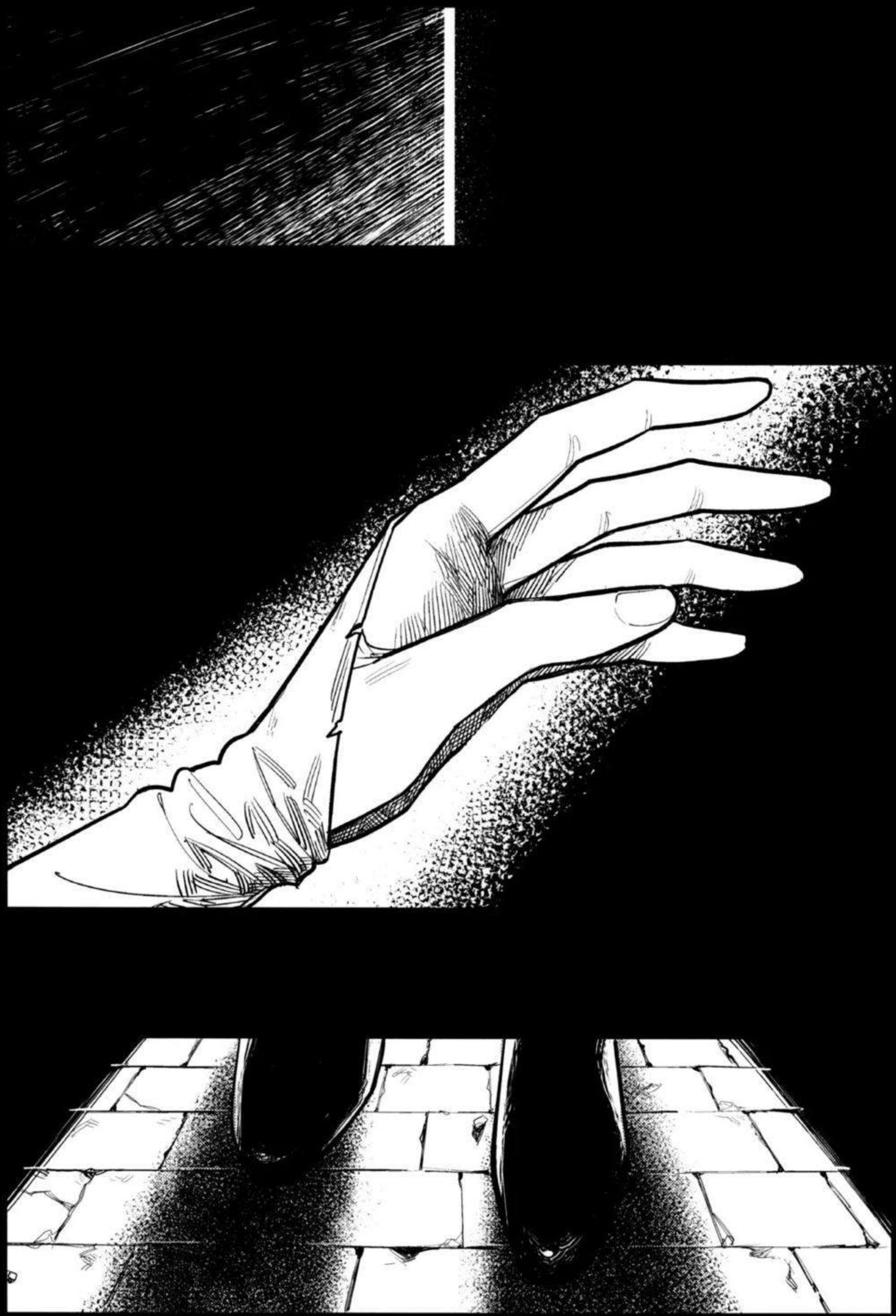
おぬしが探して
おる者にも、

立ち止まらねば
いずれ逢えよう

だから
征ゅこうぞ
わしと共に。



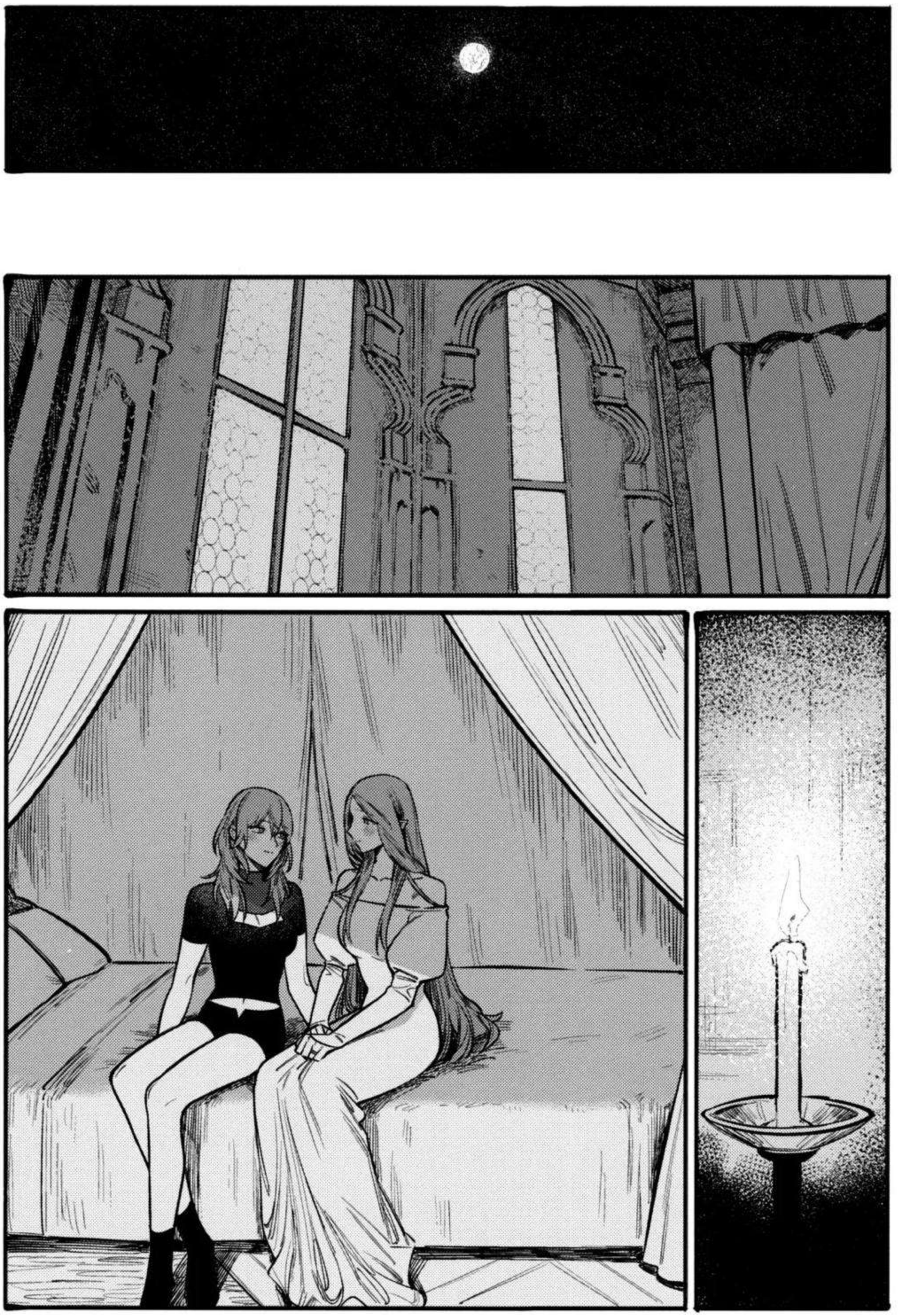
どうか…
ベレスを
守って…
ベレス…
私のたった
ひとり…
私は…
あなたを…

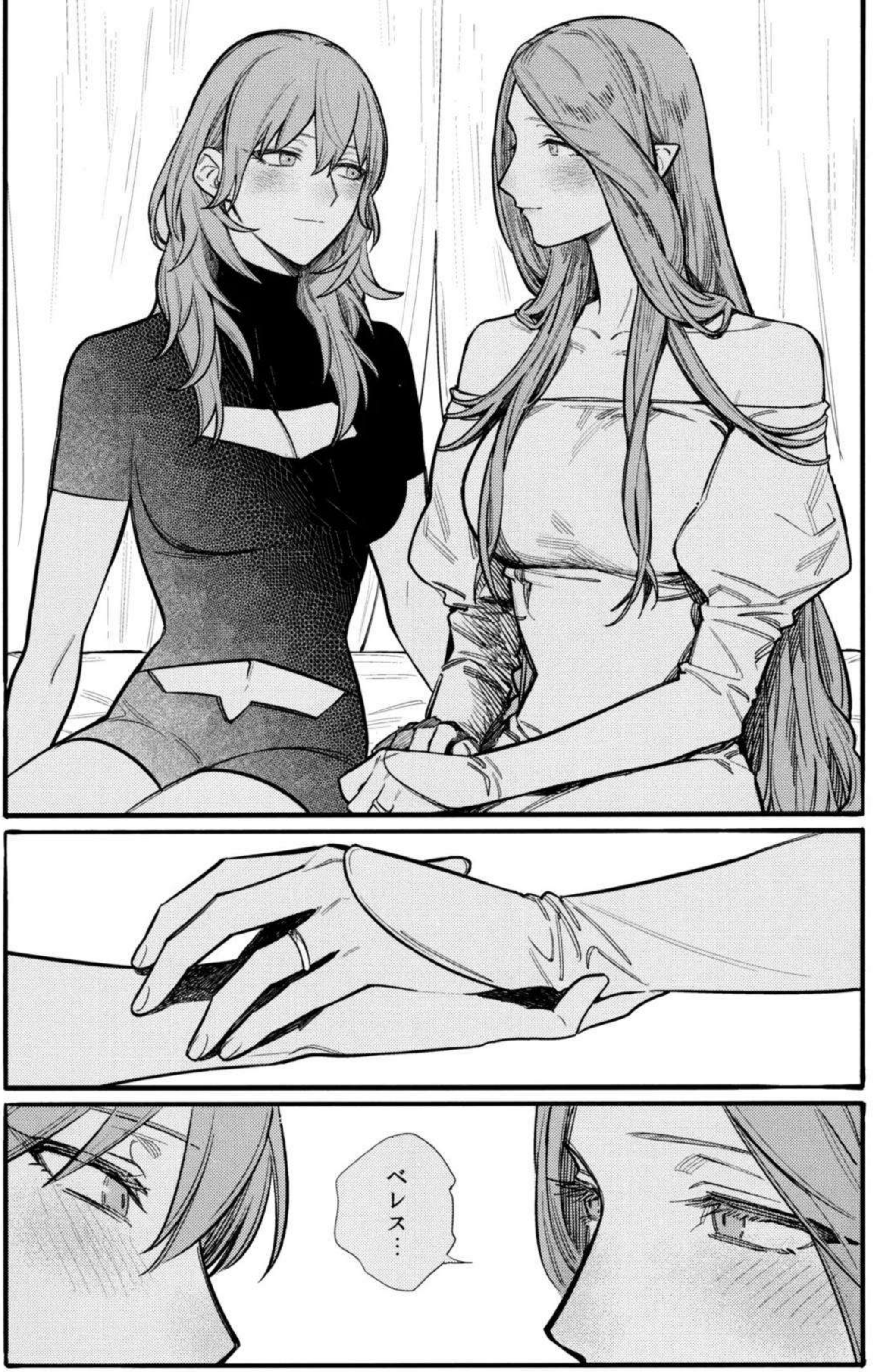


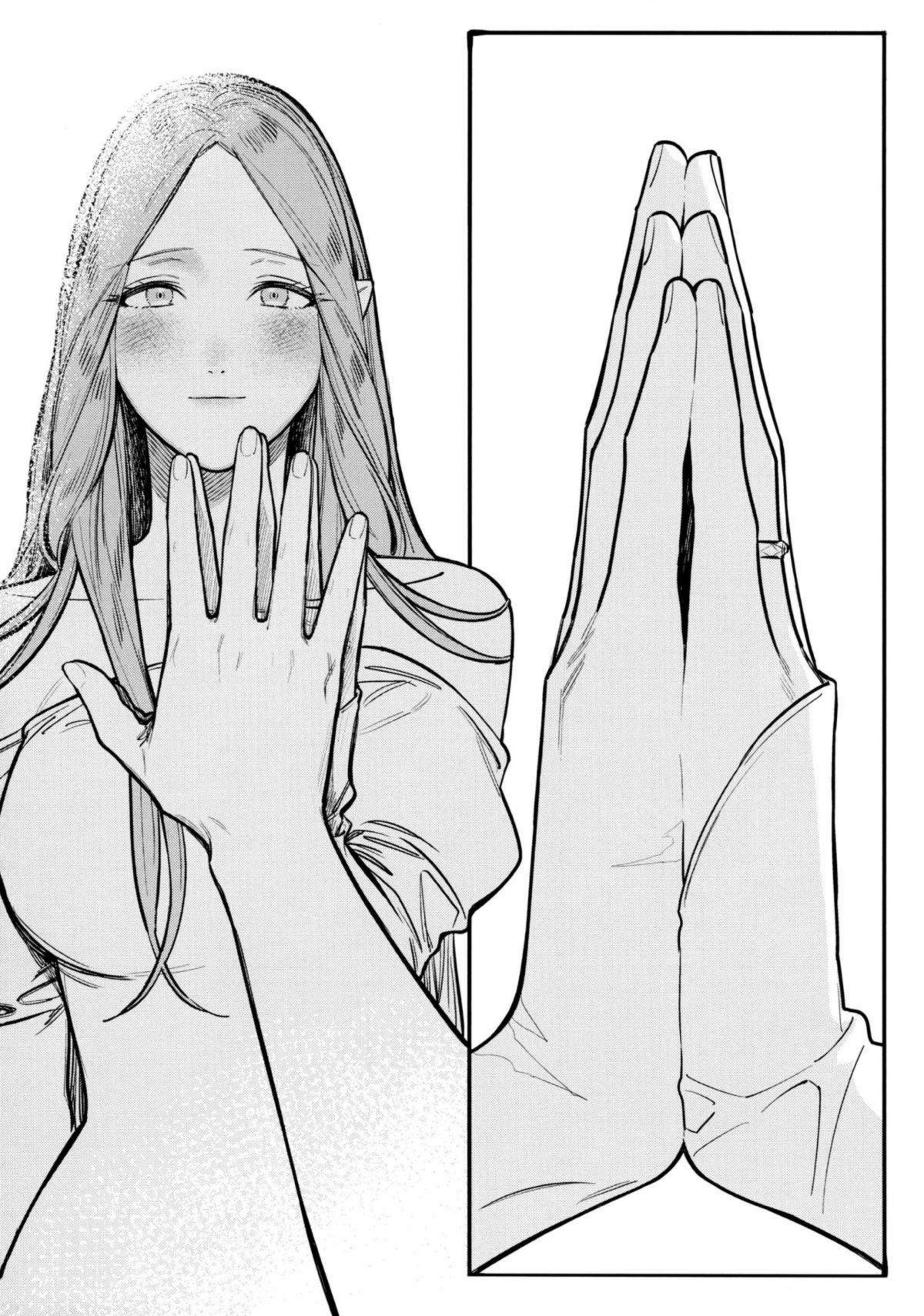
13番目のオルギヅメ

その剣に、あなたの剣を委ね、
その王を、あなたの上に戴き、
その翼で、あなたの生を助け、
その声が、あなたの心を赦す。
あなた方に女神の加護あらんと。

－ セイロスの書　第一章　啓示録 －

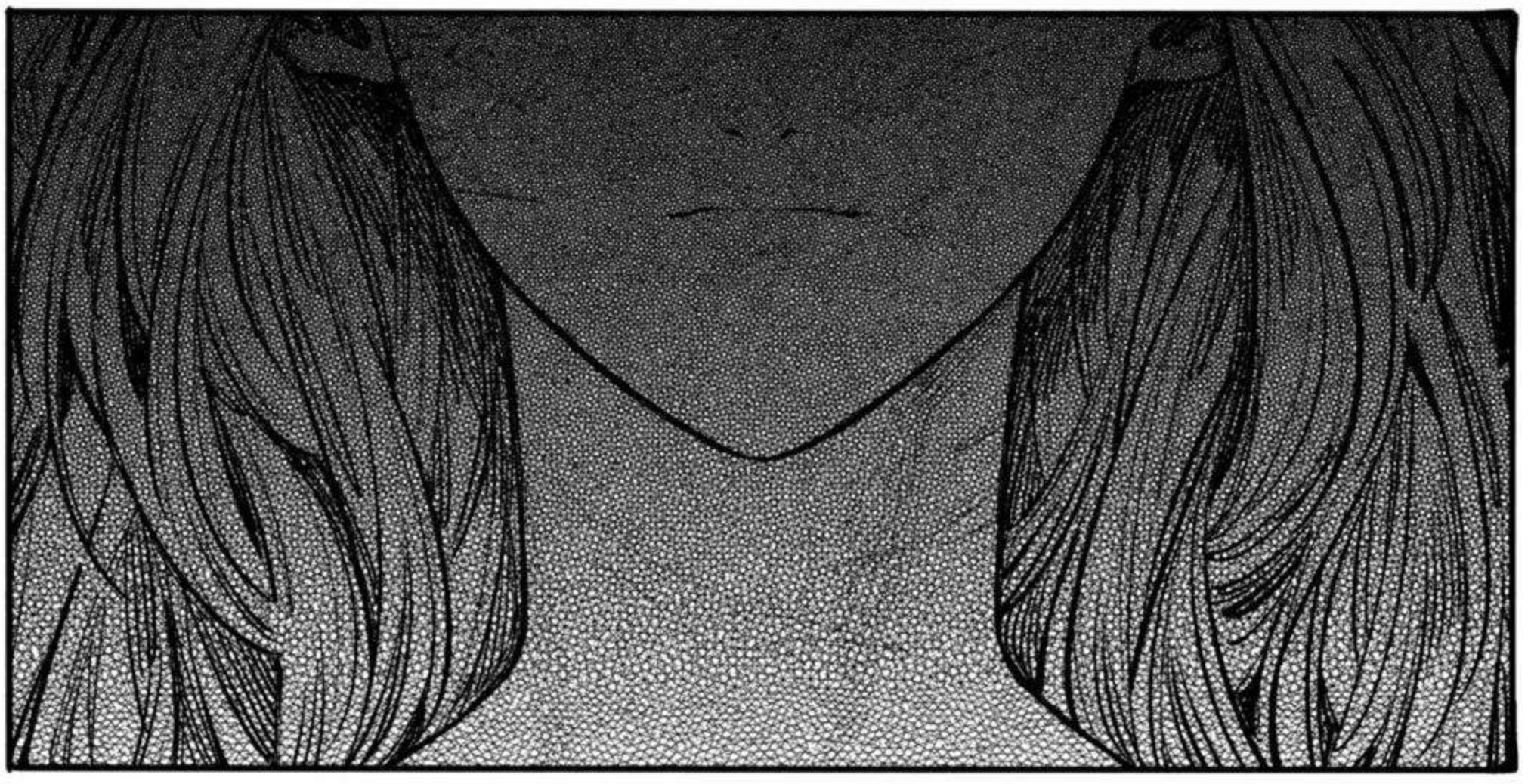



ベレス…



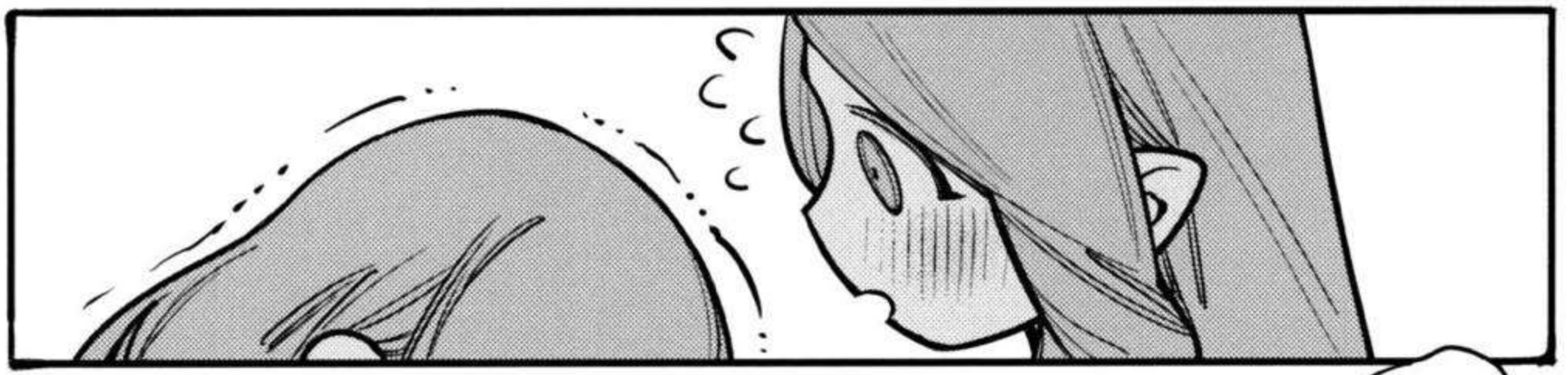
指先から
掌から

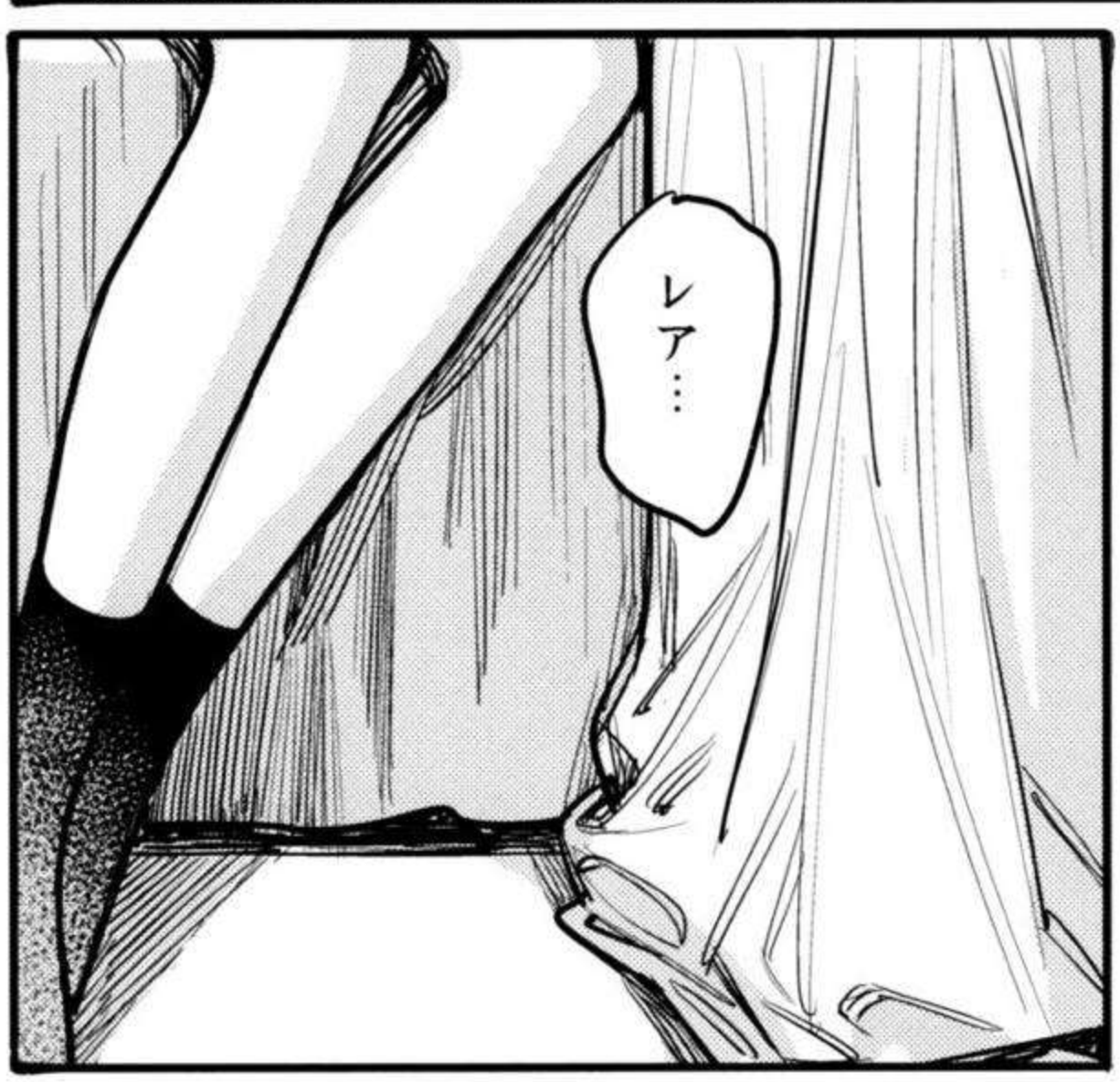
レアの体温が
伝わってくる

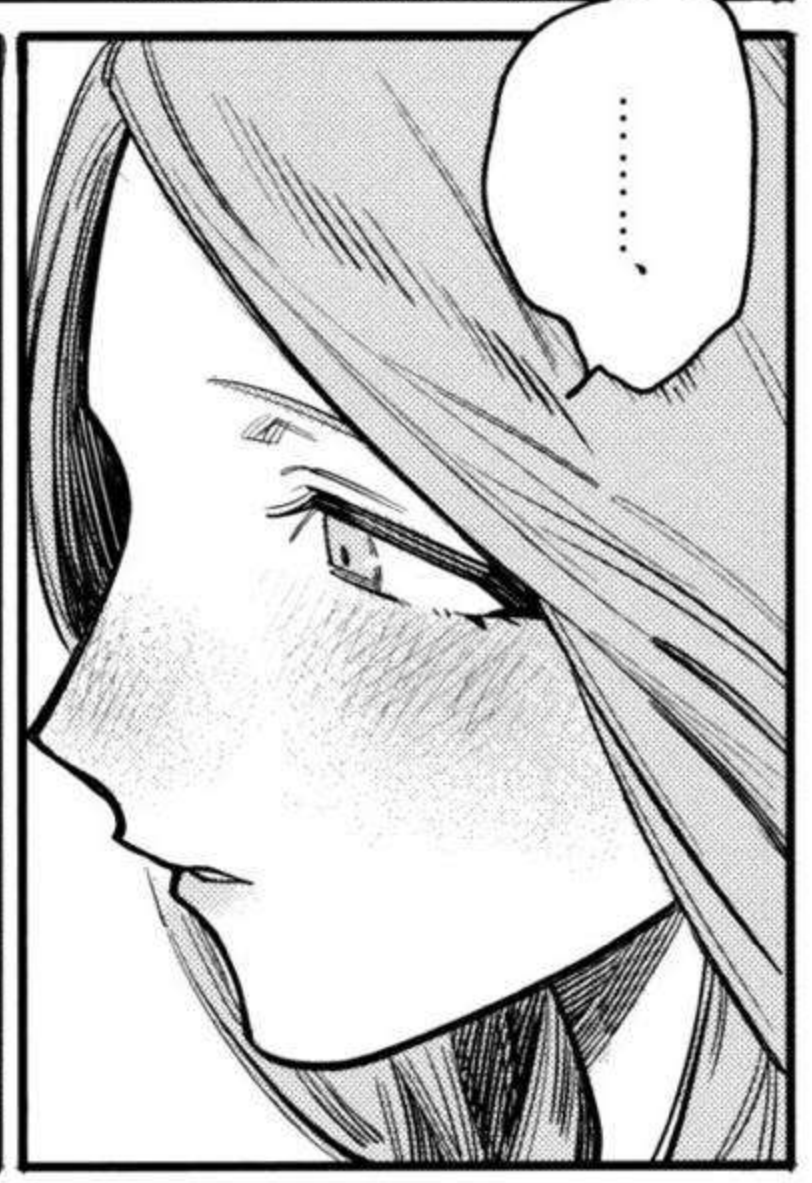


違う…
レアは…

…生きている…







ペレ…
はら

っ……

……

ふっ…

んっ…
んん…
する…
ふっ…
ちゅっ
くちゅ

しゅるる…

あっ…

…恥ずかしい？

その…

ええ…少し…

ぽよっ？
…！
ベレス…

この傷は…
私の所為で…？

大丈夫
どこも痛くないよ

だから…
レアもみせて

っ……

ええ…

あ…
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
ベレス…

ギシッ

レア…

はあ

はあ

もう…

そんなに緊張しなくていいんだよ

は…

んっ…

はっ…

っ……、ふう……

どくっ

ベレスっ…

つ…

っ……

すりっ

あ…っ

なぁっ

ベレス…っ

っ……！

うぅ…！

はぁっ

にゅる…

ベレスっ

ちゅうう…

あ…っ

はぁ

ベレス…っ

んんっ…

レアが何度も
譫言(うわごと)のように
私の名を呼ぶ

皮膚を伝う
汗に混ざって

白い花に似た
蜜の匂いが漂う

はぁ…っ

あ…

キュっ

くちゅ…

ああぁ…ベレス…

そんな…だめ…あぁ…っ

あっ

んん…

あっ…

くちゅっ

ちゅっ

ちゅる

きゅうう

はあっ

ぞくぞくっ

はっ…

ぞくぞく…

んんっ…

ぞくぞく…

ちゅ

んっ

ちゅるる

ふぅ

ぬちぬち

んうぅ

とろ…

はあっ

内側も濡れてきた…

ぐぐっ

ふぅぅぅ…っ

ぐぐっ

ふっ…

んう…

ベレス…

そろそろいいかな…

レア…

手を…こっち…

ギシッ…

はぁっ…

ああ…本当に

綺麗…

つう…

ん…

はぁ…

ベレス…

んん…

はぁ

はぁ

くちゅ…

大丈夫…
力抜いて…

んん…っ

んうう…

はっ…

あぁ…

ベレス…
こんなに…

あなたを
強く感じる
なんて…

っ…
レア…っ
ぎゅっ
んむっ
ん、く…
ぷるるっ
ぷるっ
はっ…あ
ベ、レス…
ベレス…っ
ぎゅっ

レア
ギッ
あ…っ
はぁ
ギシッ
んっ
レアっ
ギッ
はっ
ベレス
ギッ
あ…
ん…っ
ギシ
ふぅん
やぁっ…
レア…

きゃっ…

びくっ

ああぁ…ベレス…

びくっ

はぁ

はぁっ

レアのなか…すごく熱くて溶けちゃいそう…

あ、ぁ

はぁ、うんっ

ベレス…っもう…私…

こ…こんな…体が火照って…

はぁ

どうかしてしまいそう…っ

はっ

我慢しないで…レアの声もっと聞かせて

ぶるっ
レア…
愛してる…
ぐぐっ
ああっ
やっ…！
あっ…あ…
ベレスぅ…！
もっと…っ
はっ
はあっ
レア…！
もっと…
あなたと…
深くまで
繋がりたい…

全身の
あらゆる筋肉が
緊張と弛緩を
繰り返す

うねるように
溶け合うように

未来永劫
失わぬ為に

はぁっ

はぁ

はっ

レア…

んんっ…

はぁ

ぬる…

はぁ

はっ

ぺろ

はぁ

はっ…

ベレス…

あぁ…
レア…
貴女は
ここに…

はぁ

ここに
いるのね

もう絶対に
離さない

私の…
たった一人…

愛しい人…

あの日
私は願った

これが
悪い夢で
あるように

レア

レア…

静かに眠る
レアの顔は
とても
安らかだった

私の声は
届かなかった

彼女はもう
私の名を
呼ばない

夢みたいに
綺麗だった

二度と
輝かない

その目も

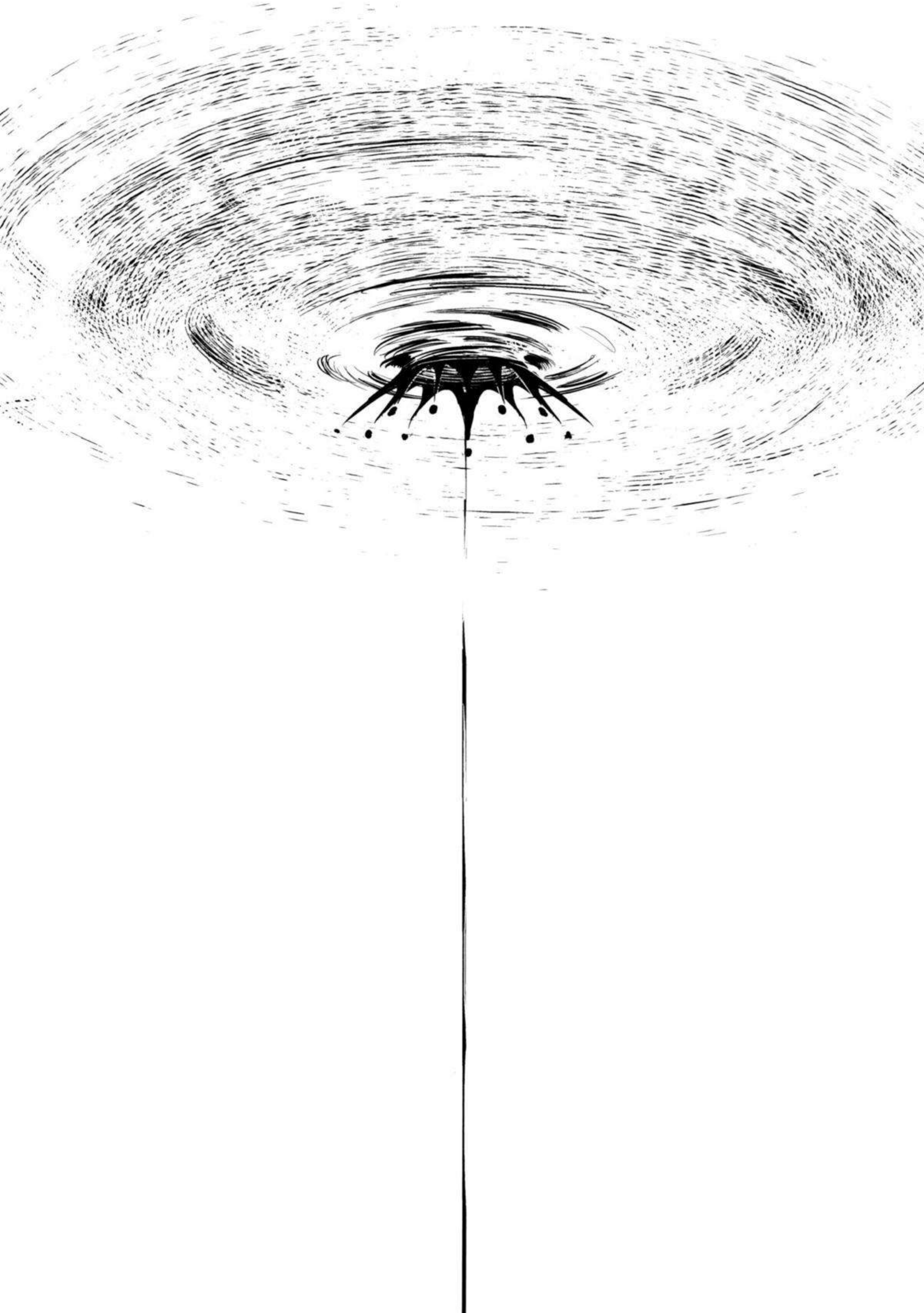
その唇も

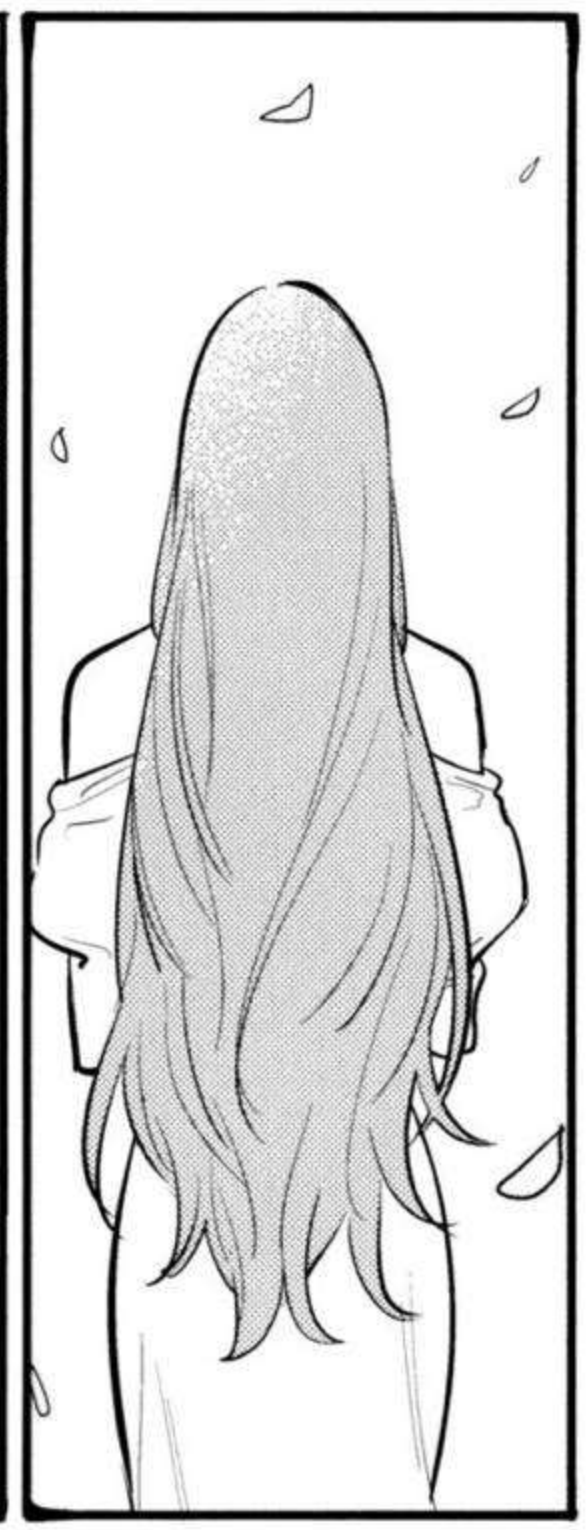
その掌も

だ
か
ら

私
は

あ
な
た
を





レア！
あぁ…！

やっと
会えた！

２０２２年６月２６日
刻印の誇り１５

発行
ALSeTRO

印刷
緑陽社

後書

この同人誌をお手にとっていただき
そしてここまで読んでくださり、本当にありがとうございます。
描きたいことがたくさんあって好き放題したわりに上手にまとめられず
わかりにくい感じになってしまって大変申し訳ありません…。
こんなに長い同人誌をかいたのは初めてで
いろいろと試行錯誤できてとても楽しかったです。

ずっとこの二人のお話をかきたい…かきたい…と思っていたので、
なんとか同人誌の形にすることが出来て少しほっとしました。

さて、このようなあとがきを最後まで読んでくださって、
本当にありがとうございました。

また機会があれば、次の本でお会いできますように。

ぎゃりん

レア…？

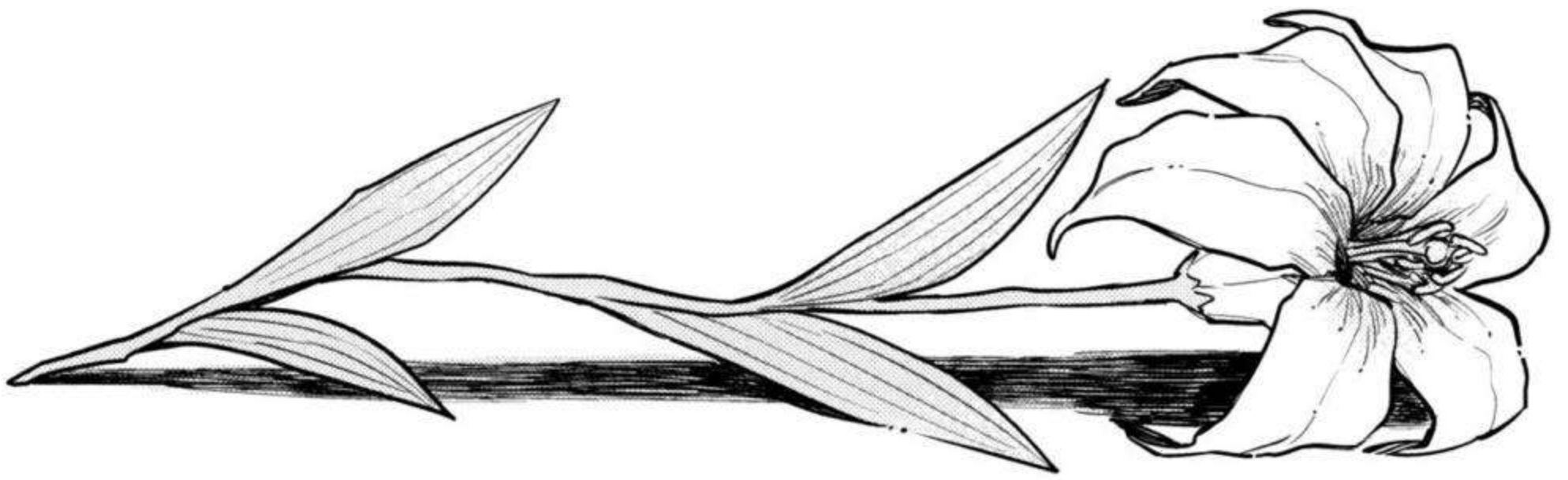
ベレス…

っ……

ああ…

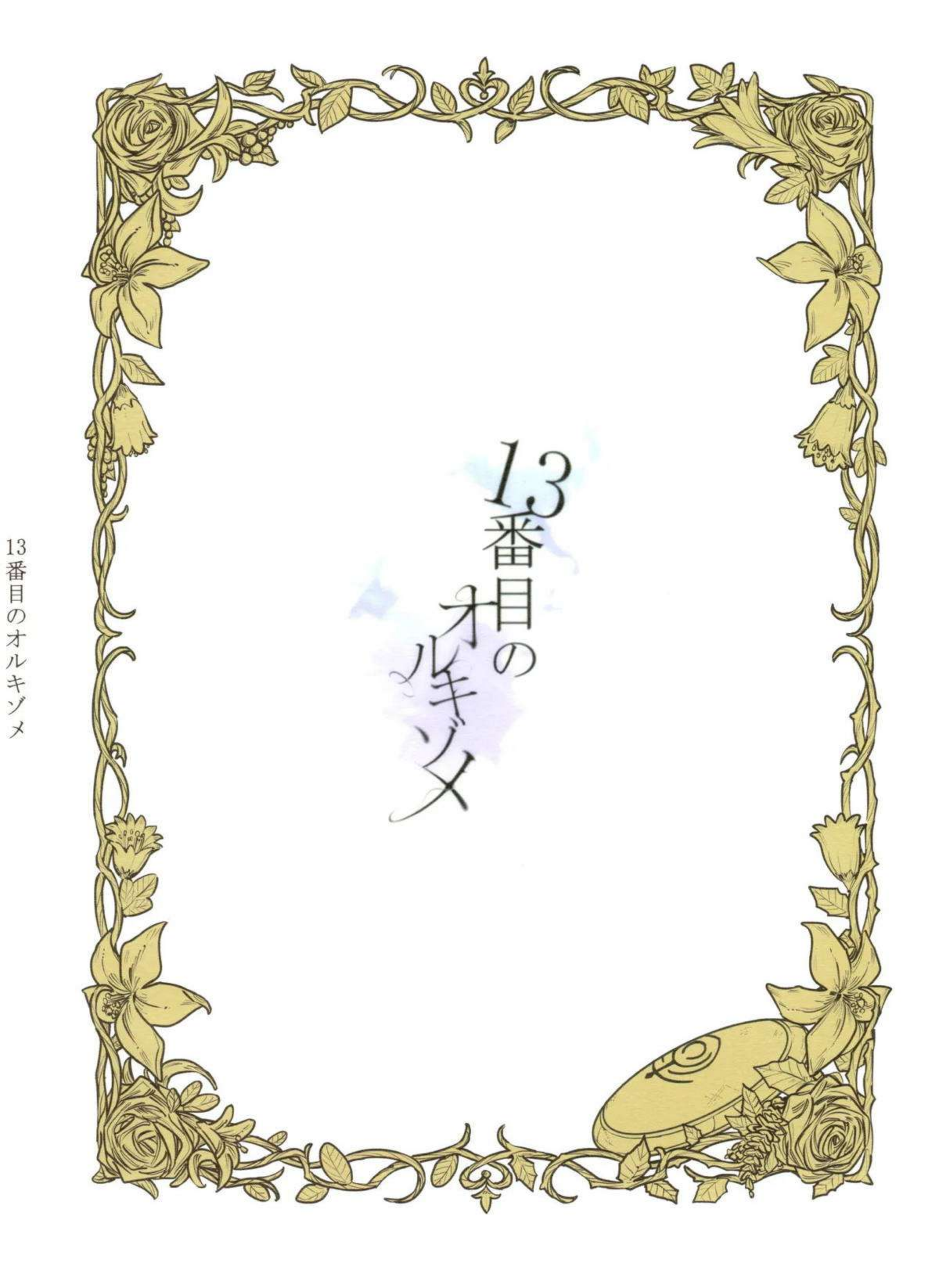
おかえり、
レア……。

13番目の
オルキゾ文



ご意見、感想等はこちらへ →

無断転載・複製・複写・インターネット上へのアップロードを固く禁じます。
一般の方の目に触れませんよう、フリマアプリ・ネットオークションへの出品は何卒ご遠慮ください。
また、この同人誌が不要になった際には、大変お手数ですが、
お住まいの地域の古紙回収日に従って処分してくださいますようお願い申し上げます。


13番目のオルキゾメ